

iCOTBa

2024

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 12 号

2025(令和7)年3月
愛知県立大学

i C T B a

2024

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 12 号

2025(令和7)年3月
愛知県立大学

目次

私たちの合言葉— Our iCoToBa! We're iCoToBa?	1
1 グローバル実践教育と iCoToBa	3
1.1 グローバル実践教育プログラム.....	3
1.2 iCoToBa における学習支援	5
2 iCoToBa での語学教育	7
2.1 iCoToBa 開講講座一覧	7
2.2 講座内容.....	10
2.2.1 留学前準備講座.....	10
2.2.2 英語コミュニケーション講座.....	15
2.2.3 地域コミュニティ言語講座.....	19
2.2.4 語学検定試験対策講座.....	25
2.2.5 イベント・ワークショップ型講座.....	29
2.2.6 iContact（あいこんたくと）.....	31
2.2.7 海外大学の学生とのオンライン交流.....	36
3 留学報告会.....	36
4 グローバルセミナー.....	38
5 iCoToBa のイベント	47
6 外部・地域との連携事業.....	56
6.1 探・県大スタディツアー.....	56
6.2 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業への協力.....	57
7 広報活動.....	58
7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信	58
7.2 SNS での発信（Facebook・Instagram）.....	59
8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧	63
9 iCoToBa 施設見学	64
9.1 高等学校の iCoToBa 施設見学	64
10 グローバル実践教育推進室会議.....	65
11 グローバル実践教育推進室.....	66

私たちの合言葉—Our iCoToBa! We're iCoToBa?

奥田 隆史

グローバル実践教育推進室長・教養教育センター長

皆さま

2024 年 4 月から室長を担当することになりました。よろしくお願いいたします。

担当前には、そろそろ iCoToBa、という名称を weCoToBa に変えたら愉快だなと思っていました。今は iCoToBa を合い言葉(Password)と捉え、様々な Password 同様忘れることなく、しっかりと管理運営していくことが、私の使命だと肝に銘じております。

さて iCoToBa が誕生したのは 2013 年度、干支は巳年でした。2024 年は辰年ですから干支が一回りしたことになります。ここ iCoToBa で言葉を磨いた卒業生も、社会では中堅どころとして、様々な分野で活躍していることでしょう。

この間、我々を取り巻く環境が大きく変わりました。あるシンクタンクの調査によると、2024 年 1 月の国内携帯電話所有者のスマートフォン比率は 97%だそうです(2013 年は 36.8%)。結果、音楽はスマホでサブスクリプションサービスを利用して聴くことが主流になりましたし、コロナ禍を経てオンライン会議も定着しました。2022 年末には対話型生成 AI がリリースされあっという間に普及し、22 世紀のネコ型ロボットが提供してくれると信じていた「ほんやくコンニャク」を食べなくても、スマホの翻訳アプリが通訳までしてくれるようになりました。だからこそ、対話型生成 AI では代替できない、人と人の生の交流を提供する iCoToBa は、ますます貴重な「場」になってきています。

ところで 2025 年は、大学隣で開催された愛・地球博の開催 20 周年です。当時記念講演でノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイさんは、「日本にしかない『もったいない』という言葉は、持続可能な社会を目指す私たちへの素晴らしいコンセプトだ」と来場者に訴えかけました。iCoToBa といういわばサブスク環境、そこで実施される様々なイベント、講座を活用しないことも『もったいない』話です。2025 年、新年早々、毎日のように、国際社会は過激な言葉に振り回されているように感じています。言葉には力があります。言葉は互いを理解し、平和な世界を築くための強力なツールとして使いたいものです。この iCoToBa で、皆さんと共に、私自身もツールの使い方を学び続けていこうと思います。



写真：異星人交流にチャレンジ(2013 年夏、Area51 周辺にて(ネバダ州レイチェル))

1 グローバル実践教育と iCoToBa

2017 年 4 月に、グローバル実践教育推進室が設置され、「グローバル実践教育プログラム」および教育施設である iCoToBa(あいことば: 多言語学習センター)の運営を行っている。

iCoToBa では、「グローバル実践教育プログラム」を推進するために多様な活動を行っている。具体的には、全学部生を対象とした外国語学習支援をはじめ、グローバル化が進む地域社会において、各学部の専門性を活かす場における外国人住民とのコミュニケーション能力の養成や多文化共生社会に必要な異文化理解、さまざまな情報を得るための実践的な英語能力の養成などが挙げられる。

以下、グローバル実践教育において、iCoToBa が果たす役割と、本年度の iCoToBa の取り組みについて述べる。

1.1 グローバル実践教育プログラム

2017 年度に始まった「グローバル実践教育プログラム(学部により 19~26 単位)」は、2021 年度から教養教育新カリキュラムと連動し、「県大世界あいち学マイスター制度・グローバル実践教育マイスター(全学部 20 単位)」として認定される。卒業時に獲得する知識とスキルは 8 つの分野に定められ、それぞれに科目が設置されている。

- A. 国際教養
- B. プレゼンテーションスキル
- C. 情報リテラシー
- D. 広義のコミュニケーション力
- E. 異文化適応能力
- F. 課題発見・解決力
- G. マネジメント能力
- H. 外国語能力



フィールドワークや PBL などのアクティブラーニングを取り入れ、他学部の専門科目を履修できるようにすることで、異なる専門性や背景知識を持った人と協力し課題を解決する機会が設けられており、実践的な学習そのものが異文化理解体験につながるよう工夫されている。(別表 1、2 参照)

別表 1 グローバル実践教育プログラム

	開講科目	設置 単位	必修 単位
A・ 国際 教養	愛知の文化遺産	2	2
	日本の歴史と文化	2	
	アジアの歴史と文化	2	
	ヨーロッパの歴史と文化	2	2
	北アメリカの歴史と文化	2	
	中南米の歴史と文化	2	
	アフリカの歴史と文化	2	
	現代社会の諸問題	2	
	エリアスタディーズ総論	2	
B・ プレゼン テーション スキル	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	2
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	県大教養ゼミナール	4	2
C・ 情報リテ ラシー	情報リテラシー	2	2
	メディア情報基礎	2	
	高度情報社会の理解	2	
	データサイエンスへの招待ー実践編	2	
D・ 広義の コミュニ ケーション 能力	多文化社会とコミュニケーション	2	2
	キャリア実践	2	
	日本語表現法	2	
E・ 異文化 適応能力	Global Vision Talks	2	2
	Japan Seen from Outside	2	
	Japan's Interactions with Other Cultures	2	
	教養外国語ショートプログラム	2	
	教養留学修得科目	6	
F・ 課題 発見・ 解決力	ものづくりの現状と課題	2	2
	グローバル社会の諸問題	2	
	いのちと防災の科学	2	
	県大エッセンシャル	2	
G・ マネジメ ント能力	インターンシップ実践	2	2
	キャリア展望ー生き抜く力ー	2	
H・ 外国語 能力	英語 II	4	2
	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	
	ポルトガル語 I	4	
	ポルトガル語 II	4	
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	フランス語 I	4	
	フランス語 II	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	スペイン語 I	4	
	スペイン語 II	4	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	ドイツ語 I	4	
	ドイツ語 II	4	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	中国語 I	4	
	中国語 II	4	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	ロシア語 I	4	
	ロシア語 II	4	
	韓国朝鮮語 I	4	
	韓国朝鮮語 II	4	
	日本語 I	4	
	日本語 II	4	

別表 2

外国語学部

	専攻外国語	第2外国語（教養教育外国語科目）
英語	TOEIC Listening & Reading Test 800 点以上	TOEIC Listening & Reading Test 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 準1級以上	実用フランス語技能検定試験 3級以上
スペイン語	DELE B1 以上	DELE A1 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 2級以上	ドイツ語技能検定試験 4級以上
中国語	中国語検定試験 2級以上	中国語検定試験 3級以上
ポルトガル語		外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上 または、「ポルトガル語Ⅱ」、「エクスプレス・ポルトガル語」で A 評価を 4 単位以上
ロシア語		ロシア語能力検定試験 4級以上 または、「ロシア語Ⅱ」で A 評価を 4 単位
韓国朝鮮語		ハングル能力検定試験 3級以上、または韓国語能力試験 3級以上
日本語		日本語能力検定試験 N1 合格

日本文化学部 教育福祉学部 看護学部 情報科学部（いずれか1言語について達成の必要有）

英語	TOEIC Listening & Reading Test 550 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 4級以上 または、フランス語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
スペイン語	DELE A1 以上 または、スペイン語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4級以上 または、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
中国語	中国語検定試験 4級以上または、中国語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上 または、ポルトガル語Ⅰ、Ⅱ、エクスプレス・ポルトガル語で A 評価を 4 単位以上
ロシア語	ロシア語能力検定試験 4級以上 または、ロシア語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
韓国朝鮮語	ハングル能力検定試験 5級以上または、韓国語能力試験 1級以上または、韓国朝鮮語Ⅰで A 評価を 4 単位
日本語	日本語能力検定試験 N1 合格（留学生対象） または日本語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上

備考

注1：検定試験は、本学在籍中に受験したものに限る。

注2：TOEIC Listening & Reading Test については公開テスト、あるいは、本学で受験した IP テストに限る。

1.2 iCoToBa における学習支援

本学のグローバル実践教育を推進し、多文化共生社会で活躍できる力を身につけるために、iCoToBa では、以下のような外国語学習支援と異文化理解および異文化交流のための活動を行っている。

1. 外国語学習支援(第2章参照)

目的別、レベル別に5種類の語学講座(留学前準備講座、英語コミュニケーション講座、地域コミュニティ言語講座、語学検定試験対策講座、イベント・ワークショップ型講座)と、個別指

導を行う iContact(あいこんたくと)を開講している。それぞれの内容を表 1 に示す。

[表 1 iCoToBa における外国語学習支援]

講座名称	内容
留学前準備講座	留学に必要なアカデミックスキルや、留学先の日常生活に必要な知識や会話能力を養成する講座
英語コミュニケーション講座	外国語を専門としない学生も受講しやすいように、CEFR の A1 レベルから C1 まで、多様なクラスを設定した講座
地域コミュニティ言語講座	愛知県を中心とする地域でニーズの高い外国語(ポルトガル語など)を中心に、外国にルーツを持つ人々への円滑な対応を目指す。専門職業分野にも特化した講座
語学検定対策講座	TOEIC、TOEFL、IELTS その他語学検定試験対策講座
イベント・ワークショップ型講座	学生主導のプロジェクトや「task-based learning」ワークショップで、教員と学生が協働する新しいタイプの講座
iContact	外国人教員(予約制)および留学生による個別指導

2. 留学報告会(第 3 章参照)

学生の留学への動機づけを目指した、留学体験談を聞くイベントである。週に一度、昼休みに開催している。

3. 国内外のグローバル・ 이슈を学ぶ、グローバルセミナー(第 4 章参照)

本学の専任教員を中心に、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などを紹介するセミナーである。全学教員の協力により、さまざまなテーマを取り上げている。1 回完結型で凝縮された内容を扱っており、学生のみならず教職員の参加も多い。

4. 異文化理解・交流イベント(第 5 章参照)

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。異文化を理解し、外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、企画段階から学生も参加しており、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

5. 地域社会と連携した学習機会の提供

地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

6. 学生活動の支援

学生の自主的な活動を貴重な学習経験と捉え、iCoToBa では、学生による企画立案・実施を推奨、サポートしている。現在、学生の自主活動グループ iCoToBa Supporters Club (ISC) が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。

2 iCoToBa での語学教育

iCoToBa では、外国語教育の目的として、①留学準備、②全学の英語力の強化、③多文化共生社会に必要となる専門性を活かすための外国語コミュニケーション能力養成に重点を置いている。このような目的のもと、2024 年度に iCoToBa では「留学前準備講座」、「英語コミュニケーション講座」、「地域コミュニティ言語講座」、「語学検定試験対策講座」、「イベント・ワークショップ型講座」が開講された。iCoToBa の語学講座は、1 学期に 13 コマ行うものと、外国語を専攻としない学生にも学びやすいよう、5 コマで 1 セットや 10 コマで 1 セットのコースもある。

また、愛知県をはじめとする東海地域は、外国人居住者が多い地域であり、私たちは社会のあらゆる場面で外国人とのコミュニケーション場面に遭遇する。そこで、看護師、介護士、教師、公務員などを目指す学生を対象に「地域コミュニティ言語講座」を開講している。2024 年度は、スペイン語、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語そして多言語のコミュニティ通訳入門の講座を開講した。そして、多様な目的に応じて複数の媒体を扱いながら、外国語のスキルを活用することのできる“NEXUS Project”では、社会的課題に関わるメディア制作やコミュニティ通訳の実践を体験できる講座を開講した。

これらの講座に加えて、個別指導を行う iContact(あいこんたくと)も実施した。

以下、2024 年度に iCoToBa で開講した語学講座について報告する。

2.1 iCoToBa 開講講座一覧

2024 年度に iCoToBa で開講した語学講座を、表 2～5 に示す。表内の「レベル」はヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference:CEFR)によるものである。それぞれのレベルの目安は、A1:初級、A2:初中級、B1:中級、B2:中上級、C1:上級、All Levels はレベルに関係なく受講できる科目である。＊は NEXUS Project 講座を示す。

[表 2 2024 年度 iCoToBa 開講 留学前準備講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	＊中級・上級ディスカッション:グローバルニューストーク	Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English	B1-C1	4
前期	＊日本のポップカルチャーについて話しましょう:「宮崎駿」編	Let's Talk Japanese Pop Culture: Hayao Miyazaki	B1-C1	7
後期	＊現代社会問題ディスカッション: AI とは何か	Current Events Discussion: What is AI ?	B1-C1	
後期	＊日本のポップカルチャーについて話しましょう:(日本よりも?)海外で人気のアニメ作品	Let's Talk Japanese Pop Culture: Anime's Global Popularity	B1-C1	3

前期	フランスでの生活を始めましょう！	Allons en France !	A2-B1	8
後期	フランスでの生活を始めましょう！	Allons en France !	A2-B1	4
前期	スペイン語・DELE の準備をしよう！	¡Listos para el DELE!	A2-B1	8
後期	スペイン語・DELE の準備をしよう！	¡Listos para el DELE!	A2-B1	3
前期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	4
後期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	3
前期	中国事情を語る	留学之前話中国	A2-B1	3

[表 3 2024 年度 iCoToBa 開講 英語コミュニケーション講座]

開講 時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
前期	生きた英語発音 新入生・初級生向けの楽しいコース	Pronunciation Profiles Fun Class for New Students and Beginners	A1-B1	21
前期	*iCoToBa メディア制作ラボ	iCoToBa Media Production Lab	All Levels	3
前期	英会話: 基本へ立ち返る	English: Back to Basics English Communication Workshop	A1-B1	31
前期	映画を使った英語学習のコツ	Study English with Movies	A2-B2	24
後期	初心者向けフリートーク: ボキャブラリーと 簡単なディスカッション	Free Talk for Beginners: Vocabulary Drills and Simple Discussion	A1-B1	9
後期	*iCoToBa メディア制作ラボ	iCoToBa Media Production Lab	All Levels	
後期	英語で自分の海外旅行計画を立て よう！: 英語と旅行をつなげる	Plan a Trip in English: Applying your English to your Travels	A2-B2	6

[表 4 2024 年度 iCoToBa 開講 地域コミュニティ言語講座]

開講 時期	科目名称	受講者数
前期	文化・生活分野スペイン語入門講座	3
後期	教育分野スペイン語入門講座	3
前期	文化・生活分野中国語入門講座	10
前期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座超入門編	19
後期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座超入門編	3
前期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	3
後期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	2
前期	コミュニティ通訳入門講座	5
後期	コミュニティ通訳入門講座	6

[表 5 2024 年度 iCoToBa 開講 語学検定試験対策講座]

開講 時期	科目名称	受講者数
前期	TOEIC 対策:英語力強化講座	12
夏季	英語力強化集中講座	12
後期	TOEIC 対策 10 週間コース	6
後期	TOEIC Clinic (Separate Sessions)	17
前・後期	ポルトガル語:CAPLE に挑戦しよう!	4
後期	フランス語:ネイティブによる仏検 1 次試験対策講座	5
後期	スペイン語:DELE B1 の準備をしよう!	4
後期	中国語:中国語検定試験 3 級合格を目指そう!	10
後期	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験および CEFR 対策講座	4
後期	日本語能力検定試験対策講座(留学生対象)	8

2.2 講座内容

2.2.1 留学前準備講座

【英語】

* Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Thursday 2nd period

Objective:

- To improve listening comprehension and vocabulary for news in English.
- To make a habit of reading the news in English and thinking critically about events.
- To practice expressing and defending our opinions about controversial topics.

Course Contents:

This course had two lesson modules which were repeated through alternating weeks. The first style was listening oriented. The teacher played 2 to 3 news broadcasts, while highlighting important vocabulary. Students then wrote summaries of their understanding of the broadcast, which we checked as a class. Afterwards, the students had a discussion about the issues in those broadcasts. The second style was reading and discussion oriented. Students shared their chosen news articles on a Teams page and presented their view of the issues in class. After a Q&A session, they broke into groups and discussed the issues. In the final week of class, we reviewed our topics and discussed how to integrate critical news consumption into our lives.

End-of-Semester Review:

This class had the same structure as in previous semesters. Due to the poor attendance last semester due to the scheduling, I changed the time slot to a new time. The student numbers returned to the standard number for this course: five regular attendees. In addition, all the members were students who had taken either a previous version of this course or another iCoToBa advanced discussion course, so they all were familiar with the open-ended and student-centered methods of this kind of class. I am pleased that these kinds of class produce “repeaters;” in other words, once a student joins one and sees what we have to offer, they will come again. iCoToBa should continue to offer these chances for skilled and motivated students, regardless of class size.

* Let's Talk Japanese Pop Culture: Hayao Miyazaki

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Thursday 4th period

Objective:

- To critically analyze and discuss important aspects of contemporary media culture.
- To gain the language skills needed to critically discuss cultural issues in English.
- To build and carry out a course plan designed by the students themselves.

Course Contents:

At the beginning of the course, an aspect of contemporary culture was presented, and the participating students designed their own course of study for it. For this course, the topic was films by the popular anime director Hayao Miyazaki. Alternating groups of students chose Miyazaki films, which we watched and discussed in class. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided on the samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

End-of-Semester Review:

This Nexus course was a rather successful application of the method pioneered thus far, in very different circumstances. The number of students was lower than in previous versions of the course: only four students. In addition, these students were far less confident in their English abilities than in previous years. Consequently, I could not really on the "pair discussion → class wrap-up" lesson flow as usual. Using the prompts and discussion ideas from specially designed planning materials, I led the discussion myself, calling on students specifically and guiding their responses by directing them to the vocabulary worksheets and prompts. This helped give them a base for constructing their opinions about the complicated topics in Miyazaki films. The four students joined until the end of the class and expressed largely positive feelings in the course surveys, so it appears that these Nexus courses can also work with lower-level students, with some adjustments.

*** Intermediate / Current Events Discussion: What is AI ?**

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Thursday 3rd period

Objective:

- To improve listening comprehension and vocabulary for news in English.
- To make a habit of reading the news in English and thinking critically about events.
- To practice expressing and defending our opinions about controversial topics.

Course Contents:

The term "AI" or artificial intelligence is being used a lot these days, and the technologies connected to it are sources of both excitement and fear. But what exactly is "AI?" How exactly do these technologies work, and how do they relate to humans and society? The purpose of this class was to read English news articles and other sources related to the topic and discuss "AI" from a variety of angles. It was meant to give students from both science and humanities backgrounds a chance to learn and think more about contemporary issues while building advanced English skills.

End-of-Semester Review:

This class was planned and prepared with cooperation with professors from the Information

Sciences Department, and was supposed to have been a major step forward in the interdisciplinary goals of the Nexus program. All of the topics and the course materials were designed in consultation and made to appeal to a variety of students' interests. Sadly, there were no signups for the original Thursday 3rd period time slot. In response, I coordinated with an information sciences professor and their graduate laboratory students to set up a series of workshops throughout the semester, based on the Thursday 3rd slot. Sadly, due to the incompatibility of schedules between all of the parties, this failed to materialize into a sustained course. This is partially a failure of planning on my part, since I should have pinned down a number of guaranteed students before committing to the materials, as I have done in previous years. However, there is the more disappointing reality that iCoToBa is being seen less and less as a place for challenging opportunities and more as just a place to "relax." This means that if anyone wants to plan an ambitious course like this, it will require a lot of planning and an aggressive search for "pre-signups" of interested students during the break period, which is often not possible due to the "one semester, one period" attitude students have vis a vis iCoToBa. On the plus side, all the materials for this AI topic are on hand, and the collaborating professors and I are thinking about how to turn this into a one-time event during the next school year.

*** Let's Talk Japanese Pop Culture: Anime's Global Popularity**

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Thursday 4th period

Objective:

- To critically analyze and discuss important aspects of contemporary media culture.
- To gain the language skills needed to critically discuss cultural issues in English.
- To build and carry out a course plan designed by the students themselves.

Course Contents:

This was another installment of the Nexus Contemporary Culture Laboratory style of courses. At the beginning of the course, an aspect of contemporary culture was presented, and the participating students designed their own course of study for it. For this course, the topic was about the globalization of anime and related Japanese cultural contents. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided the textual samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help needed. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

End-of-Semester Review:

As with all the advanced Nexus courses in this school year, we had a small turnout: only four students. However, three of these students were 4th-year B&A students who had taken our advanced classes before, and as such were highly skilled English speakers and self-motivated critical thinkers. In addition, these three were students in a seminar specializing in film studies

and could bring that expertise to the discussion. The fourth student was a 2nd-year student. His English ability and confidence were naturally lower than the other three, but his strong motivation and natural curiosity allowed him to match the dedication of the others, even if he could not speak as often. Thanks to this strong group, I could push the students for more active contributions. Each of them were assigned weeks to prepare articles related to our topics and lead the class in discussion. These were followed by short viewings of anime and then a seminar-style discussion. We discussed the globalization of anime from the angles of textual representation, international distribution, and inter-cultural reception. The class ended with a critical appraisal of what we had learned. This class matched my ideal vision for this advanced CLIL course, where language and critical learning when hand in hand.

* :NEXUS Progrm

【フランス語】

Allons en France! (フランスでの生活を始めましょう!)

担当: Karine ZIMMER

授業時間: 前期・後期 火曜 4 限

授業目的:

フランス語での日常会話がスムーズに行えるようになること。

フランス人の考え方の理解を深めること。

授業内容:

留学の経験の紹介

・日本とフランスの比較についてのさまざまなトピックス(話題・出来事)

・発音の練習

今期の総括:

今期にこのクラスに参加した学生達の多くは、留学先から戻ってきたばかりでした。

会話レベルが高く、会話能力をさらに発展させる授業を行いました。

発音と難しい文法を直したり、フランス人が日常会話で頻繁に使っている表現の紹介や、使い方の説明をしました。それらを沢山練習したことにより、学生達が自信をもって仏検準一級に合格できました。

【スペイン語】

DELE の準備をしよう! ¡Listos para el DELE!

担当: Alex Pinar

授業時間: 前期・後期 金曜 5 限

授業目的:

5 月または 11 月に行われる DELE スペイン語検定試験で A2 または B1 合格を目指し、読解、会話、聴解の練習をすることを目的とする。

授業内容:

DELE スペイン語検定試験の 4 技能、読解力・聴解力・ライティング・スピーキングの向上のため、毎週、スペイン語の復習と上達のための演習を行う。自宅で取り組むための 2 つのスキルを宿題とする。DELE 受験後は、口頭表現と語彙の上達に重

点を置く。授業はスペイン語で行う。

El examen DELE es una prueba de dominio del español como lengua extranjera ampliamente reconocido en todo el mundo y es un examen muy importante para los estudiantes de español.

En clase, practicaremos las destrezas de lectura, conversación y comprensión oral con el objetivo de aprobar el A2 o B1 en los exámenes DELE de mayo o noviembre.

El examen DELE consta de cuatro destrezas:

- Comprensión lectora.
- Comprensión auditiva.
- Expresión escrita.
- Expresión oral.

Se realizarán ejercicios semanales en clase para repasar y mejorar el uso del español. Los alumnos recibirán dos destrezas como deberes para trabajar en casa cada semana.

Después de realizar el DELE, nos centraremos en la mejora de la expresión oral y el vocabulario.

Las clases se realizarán en español.

【ドイツ語】

Vorbereitung auf das Auslandsstudium（留学前準備講座）

担当：Martin NIERIS

授業時間：前期・後期 金曜 1 限

授業目的：

海外生活を希望する学生といっても、レベルや特性、モチベーションは異なるが、それぞれが他の国々や文化に興味を持てるように心がけた。また、語学のみならずその国での生活に対する準備として、現地での生活に即した語学や文化の学習をする。さらに、外国での学習形態や方法の違いについても学ぶ。SIM カードの入手方法や銀行口座の開設の方、レンタカーの借り方、チップの渡し方などのすぐに使える情報の提供や今後、外国で仕事を探す際の助けになるような授業を行なう。インターネットリソースや外国語のアプリなどを用いて、日本にいないながらできる学習方法や国際的な情報収集についてもアドバイスをを行う。

授業内容：

大学の町

Das Akademische Viertel

メンザアプリ

小さな町リユーネブルクについての詳細な情報を説明。

Spezialitäten aus Baden Württemberg und Norddeutschland

Dialekte: Platt und Schwäbisch, Alemannisch

Neue Begriffe aus der Coronazeit

Studium und Studiengebühren

Asiatische Läden in Deutschland

Autobahn und Autofahren

Alkohol und Brotkultur

Sommerzeit und Traditionen

Eurostadt und Euroregio

Russen, Türken, Araber in Deutschland

今期の総括と課題:

今年は、留学をしないであろう社会人学生が授業に参加していたため、例年とは授業の雰囲気がいぶん違っていた。留学を前提とした学生は、概ね意欲的に取り組み、国や文化など言語のみならず、その背景にまで興味を持って授業にのぞんでいた。一人は北ドイツへもう一人は南ドイツへの留学だったが、どちらにも十分な準備を整えることができた。講師として、さらに学生の求める学習内容を提供できるように努力したい。

来年度はもっと多くの生徒が授業を受けられると良い。

【中国語】

留学之前话中国(中国事情を語る)

担当: 劉 平

授業時間: 前期・後期 木曜 5 限

授業目的:

根据学生的实际水平有针对性地进行语言表达训练, 结合中国文化、历史、经济、时事等做相应的讲解, 以巩固、提高和补充学生在主课上学到的知识。

授業内容:

本期学员为一年级学生, 不具备基本的词汇和语法知识, 因此从语音练习着手, 选择短小的成语和历史人物故事的视频, 先视听, 再根据文字材料进行朗读训练, 通过反复纠音、正音、语意讲解、向学生提示语法点, 增强学生的语感和对汉语语法特性的敏感性。

今期の総括と課題:

根据学生的反馈, 上述教学内容和方法比较适合一年级学生, 也有效地活用了远隔教学的网上资源。后期教学可在此基础上充实更多内容并适当增添一些语法讲解。

2.2.2 英語コミュニケーション講座

Pronunciation Profiles: Fun Class for Beginners and New Students

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 2nd period

Objective:

- To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.
- To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.
- To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course Contents:

Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

End-of-Semester Review:

This version of the class was conducted at the same time slot as the previous year, but the student number was more manageable: 19 students. I conducted the class in much the same way as before, without any major changes to the lesson plan or in-class activities. Since most of the students completed the course and finished the final diagnostic test, we can say that the class was a success. However, on the student surveys, there was some indication that the native speakers chosen for the talks were not as interesting to current students as in the past. The course contents will need reworking if such a course is to continue in the future.

*iCoToBa Media Production Lab

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 4th period

Objective:

- To practice media production techniques
- To do group work in a bilingual context

Course Contents:

This class continued the regular weekly class format of previous years. I used an English-language media production textbook to learn about and practice basic techniques for audiovisual media production. We also watched film clips to see the techniques in action. Then the students designed and produced two short videos. The project-based element of the media production was emphasized; the teacher played the role of “studio exec” who provided the tasks and specifications of their videos.

End-of-Semester Review:

As discussed in the last report, I decided to change this course from Wednesday afternoon to Monday afternoon. This change meant that the number of students decreased – only 3 participants – but it also means that those who joined had no schedule conflicts and could complete the course. These three students were highly motivated and cooperated excellently. They responded well to the project-based format. I taught them brainstorming and idea-selection methods for the first project, which they applied for the whole course. The videos their single group produced were the most creative and technically advanced of all the media labs so far. These videos are now part of the iCoToBa archive.

English: Back to Basics: English Communication Workshop

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 3rd period

Objective:

- To review some basic points about English grammar and speaking.
- To improve spoken English and reduce errors.
- To gain confidence and fluency in speaking.

Course contents:

This class featured simple English skills that students had covered in public school. We reviewed points of basic grammar and practiced asking questions to keep a conversation going. This class was a safe space for students who still aren't comfortable with English, as well as a chance for more confident speakers to brush up on the basics.

End-of-Semester Review:

In order to boost the number of participants in iCoToBa during the first semester, I returned this class to the Wednesday afternoon time slot. The results were much the same as in previous years. We had 30 official signups, but thanks to first-years students taking up club activities and other tasks, this number started to dwindle from about Week 5, leaving about seventeen regular attendees. As such, I opted to forgo any cumulative work and often gave the attending students a chance to do the short homework activities in class. As long as the workload and expectations are mild, this kind of class can still be a useful introduction to iCoToBa for new students in the post-Covid generation, and also boost the overall numbers for the center.

Study English with Movies

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Friday 2nd period

Objective:

- To improve English study skills using movies.
- To become motivated to study English on your own time, in your own way.
- To gain the basic vocabulary for talking about film-viewing in English.

Course Contents:

This was a study-skills workshop, where we watched popular movies and used them to try different methods of movie-based English study. We watched three movies in the course. We viewed a single film in full, then chose pieces of it to practice study methods like shadowing, vocabulary hunting, journal entries, and more. Students could vote as a class for which movie they wanted to work with.

End-of-Semester Review:

Last year, I learned that within the current APU curriculum, the Friday 2nd Period slot is convenient for students from the non-English majors in the School of Foreign Studies. Conducting the class at the same time slot this year yielded largely the same satisfactory result, with enrolled 20 students and 17 “real” members who attended regularly up to the final class. These students came from many of the non-English majors. Using streaming services made it easy to integrate democratic movie selection within the lesson plan – students had to convince each other which movie to watch next, using English. The study method modules were all completed successfully as before. The only difference was that students this year did not respond as well to English Film Log requirement.

Free Talk for Beginners: Vocabulary Drills and Simple Discussion

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 2nd period

Objective:

- To improve fluency of English through practice.
- To get over fears and hesitation over speaking English.
- To learn how to incorporate new vocabulary into speaking.

Course contents:

This was a simple free talk space aimed at beginner-level English learners. The class was divided into two parts. In the first half, we worked with a short vocabulary list, doing drills to practice using the vocabulary. In the second half, we did free talk using simple discussion topics. The activities were meant to help beginners get over their hesitation about speaking in a foreign language without structured activities.

End-of-Semester Review:

This version had a relatively high number of students for the second semester: 9 regular participants. As was the case with School of Nursing students last year, it provided a comfortable safe space to students from the School of Social Welfare, who usually do not join iCoToBa classes because of the lingering image that our classes are only for the School of Foreign Studies. As in the previous year, I integrated performance exercises at the beginning of each lesson. The group dynamic for this class was not as lively as last year but successful. Judging from the students' reactions, I reduced the in-class time spent on vocabulary activities as the course went on, focusing more on free talk and performance activities.

***iCoToBa Media Production Lab**

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 3rd period

Objective:

- To practice media production techniques
- To do group work in a bilingual context.

Course Contents:

This class was meant to build on the success of the previous semester. We would have built on the planning modules and the production skills learned in the previous semester to make a set of films with more advanced specifications. Students who had joined in the previous semester would have aided new members in learning the tasks.

End-of-Semester Review:

I had expected that some members from the first-semester version of this class would continue. The idea was to have a long-running workshop wherein older students could teach newer students, resulting in a year-long project with increasingly advanced film results and in-class use of English. Unfortunately, none of the students from the previous semester ended up joining, due to scheduling constraints, and even worse, no new students joined. Rather than

try for a late rescheduling, I opted to turn this time slot into an iContact office time. Students reserved slots mostly for speaking activities related to standardized tests such as the IELTS. This was a disappointing result. The true success of the Nexus program would have been in building year-long projects that help students connect the study of media, culture and language into a visible result. In the first semester, it looked like this lab was going to be the chance. I was mistaken. Sadly, iCoToBa's role in APU life seems to be in offering single-semester courses only. It is a hard lesson, but tempering expectations for the future is necessary.

Plan a Trip in English: Applying your English to your Travels

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Friday 2nd period

Objective:

- To understand the basics about independent travel.
- To learn English vocabulary and phrases related to traveling.
- To practice using printed and online materials in English.

Course Contents:

The ethos of this course was that planning a trip is a fun way to improve practical English skills. Therefore, this workshop-style project-based learning class guided students through the process. We practiced booking flights and hotels, reading guidebooks, and making travel itineraries. We also discussed travel safety and other issues. At the end of the class, students presented their self-designed trips to their classmates.

End-of-Semester Review:

As with the Study English with Movies class in the previous semester, this time slot remains a convenient gathering point for non-English majors. The class was smaller than in previous years, with only five students. However, these students were more professional and thorough in keeping notes about the trip-planning activities, and therefore their final trip plans were more thorough and realistic. Small classrooms often have this positive effect. Instead of planning in pairs, each student made their own trip and presented it to the class. Therefore, the final activity was more formal, taking the form of a presentation. For the future, even popular classes should be alternated every other year during the second semester, so as not to drain the pool of interested students.

* :NEXUS Program

2.2.3 地域コミュニティ言語講座

イスパノアメリカの食文化でスペイン語を学ぼう！

担当：ROJAS ESPINOZA, Lorena

授業時間：前期水曜日 6月5日 3限、6月12日、19日 3・4限

授業目的:

Durante este curso no solo te familiarizarás con los nombres y los ingredientes de las comidas, sino que también profundizarás en el trasfondo cultural que subyace en las recetas de Hispanoamérica. Exploraremos las historias detrás de platos icónicos, los rituales culinarios arraigados en la tradición y la influencia, la historia y la diversidad cultural en la gastronomía de la región. Este curso será impartido en español.

この講座では、料理の材料や名前を知るだけではなく、イスパノアメリカの食文化についても理解を深めることができます。その土地ならではの料理の背景にある歴史や、伝統に根差した食事の習慣や、その地域の食文化に関する多様性や歴史を学びます。

授業内容:

- 第1回 講座の紹介とイントロダクション
- 第2回 イスパノアメリカの料理への招待
- 第3回 メキシコと中央アメリカの料理
- 第4回 コロンビアとベネズエラの料理
- 第5回 ペルーの料理と試食会

今期の総括と課題:

今回は初めて iCotoba で授業を担当させていただきました。参加した学生は既にスペイン語を学習していたため、講義をスペイン語で行うことができました。講義内では、留学経験がある学生とこれから留学を予定している学生が意気投合し、国や文化のみならず、お料理やその地域の背景にまで興味を持って臨んでいました。講師として、さらに学生の求める学習内容を提供できるように努力したいと思います。

教育分野スペイン語入門講座

担当: 金箱 亜希

授業時間: 後期木曜日 4 限 (11 月 14 日、21 日、28 日、12 月 5 日、11 日)

授業目的:

教育現場において、スペイン語圏の児童生徒や保護者を支援する際に必要な知識、語彙や表現を学ぶ。また、他国の教育システムを学ぶとともに、通訳や翻訳をする際に注意する点を理解する。

授業内容:

- 第1回 「外国人児童生徒の背景」と「持ち物の言葉」
- 第2回 「教科用語と生活言語の違い」と「行事の言葉」
- 第3回 「母語の大切さ」と「教科の言葉」
- 第4回 コンピテンシーに関する語彙と日本のゲームを紹介する説明書の作成
- 第5回 スペインの大学で養成しているコンピテンシーに関する講座参加とスペイン語実践

今期の総括と課題:

現場で必要な知識をテーマ別に学び、事例を交えながら学習を進めた。また、翻訳や通訳が難しい表現については、個別、ペア、全体での学習形態を取り入れ、個々の理解を深める時間を確保しつつ、多様な視点や意見を共有できる環境を整えた。第5回ではサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学のマリア先生の講義を受講し、スペインの教育現場で目指

されているコンピテンシーについて学んだ。また、スペイン人学生に日本のゲームをスペイン語で説明しながら一緒にプレイする活動を実施した。ゲームを通じて、スペインの家族観や文化的な物事の捉え方を学んだ。

文化・生活分野中国語入門講座

食文化から学ぶ中国語講座

担当: 方 曉娟

授業時間: 前期火曜日 4 限 (6 月 4 日、11 日、18 日、25 日、7 月 2 日)

授業目的:

この授業の目的は中国の食文化を通して中国語を勉強することである。

中国には、昔から「民は食を以て天と為す」という言葉がある。

身近な食文化からスタートして、中国語を勉強し、中国料理と文化の奥深さを知ると同時に簡単な会話を話せるようにする。

授業内容:

第 1 回 中国料理「料理名を中国語で言えますか」

第 2 回 中国の点心「食べたことがありますか」

第 3 回 中国のお茶「美味しいですか」

第 4 回 中国の米と麺料理「上手に作れますか」

第 5 回 中国本場の水餃子作りに挑戦する

今期の総括と課題:

総括: 毎回の授業内容のプリントを学生に事前に配り、中国料理と文化の奥深さを教え、また履修者が中国語初心者の場合でも料理に関する中国語会話を少しできるように楽しく授業を行った。最終回の水餃子作りは学生達の協力でとても順調にできた。

課題: 食文化を教えると同時に学生達がより多く中国語会話をできるように教えること。

観光・文化分野 ～관광 · 문화 분야～

韓国朝鮮語 CoTo はじめ～KOREAN for K-POP TRAVELERS～

担当: 姜 信和

授業時間: 前期水曜日 4 限 (6 月 5 日、12 日、19 日、26 日、7 月 3 日)

授業目的:

本講座は、待ちに待った K-POP コンサートに行く旅行を想定して、すぐに使える実践的な会話練習を行うことを目的とした。カフェやレストランでの注文、買い物やアポイントをとる際に必須の数字の運用などを学習し、夏休み前に旅先で役立つフレーズの習熟を目指した。

韓国の伝統文化や食文化にも触れられるよう、映像による名所めぐりも試みた。

授業内容:

第 1 回 韓国到着、宿のチェックインと周辺探索

第 2 回 明洞での食事、東大門でショッピング後に広蔵市場へ

第 3 回 景福宮守門将の交代儀式を観覧、仁寺洞で伝統茶を

第 4 回 韓服を着て北村韓屋村でベストショット(インセンシャツ!)

第 5 回 前売り券のネット購入、コンサートの開演を待ちながら

今期の総括と課題：

何が起因したかは定かではないが、今回は履修登録者が多く、その点は良かったと評価できる。しかし履修者が多い分、韓国語の基礎力にばらつきや実力差が目立ち、授業運営しづらい面があった。このような状況下で、一方で入門者にとっては難しく、他方で初中級者には平易で退屈な内容になってしまったのではないかと省みる点が多い。

しかしながら、礼儀正しい受講生たちのアンケート結果によると、評価が良好であることから、概ね当初の授業目的は果たせたものとする。ありがたく受け止め、今後も一方通行ではない対話型の楽しい授業運営を心がけていきたい。

文化・生活分野 ～문화와 생활～

韓国朝鮮語 CoTo はじめ～初中級編～

担当：金 芝恵

授業時間：後期金曜日 2 限（11 月 8 日、15 日、22 日、29 日、12 月 6 日）

授業目的：

この講座は韓国語の文字であるハングルを理解している人を対象に、初級レベルでの会話ができることを目標とします。日常生活でよく使う挨拶表現からはじめ、2 種類の数詞を習い、物の数え方が分かって、買い物などができるようにします。さらに、韓国料理を食べに行ったり、街の中で韓国人に道を尋ねたりする具体的な場面を設定することで、より臨場感のある会話の練習をしていきます。そしてペアワークやネイティブの教員との会話を通して、より話す力や会話に対する自信が持てるようにします。授業の中では会話の練習だけではなく、韓国の文化や K コンテンツ関連の話に触れながら韓国に対する興味や理解も高めていきます。

授業内容：

第 1 回 はじめまして

第 2 回 コーヒー、一つください

第 3 回 韓国料理が好きです

第 4 回 今日、何を食べましょうか

第 5 回 コンビニはどこですか

今期の総括：

この講座は、韓国語を読める学習者を対象とした初級レベルの授業でした。少人数ではありましたが、参加者全員が高い学習意欲を持っていたため、非常に楽しく、順調に授業を進めることができました。学習者の韓国語レベルはそれぞれ異なりましたが、決まったカリキュラムの中で積極的に授業に参加してくれ、教える側としても、その意欲を損なわないよう工夫を重ねました。学習者のレベルに合わせた語彙や話題で、対話や質問を取り入れることで、退屈することなく、全員が授業に積極的に参加できたと考えています。講師としても、参加者の積極的な姿勢に励まされ、最後まで楽しく授業を進めることができたと思います。

初めてのベトナム語入門講座

担当：グエン タン タム

授業時間：前期金曜日 4 限（5 月 24 日、31 日、6 月 7 日、14 日、21 日）

授業目的:

ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。

ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。

日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容:

本講座の内容はベトナムとベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものです。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

第1回 ベトナムの基本知識・あいさつ

第2回 ベトナムのユニークな所・自己紹介

第3回 ベトナムの料理・注文

第4回 ベトナムの旅行・買い物

第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題:

本講座では受講生がベトナム語のみならずベトナムの基礎知識も理解できるよう工夫しました。授業は常に学生との相互コミュニケーションを重視し行いました。ベトナムの観光、歴史・文化など、受講生が知りたいことを写真や動画で紹介し、レッスンの内容と関連づけてベトナムの基礎知識を説明しました。また、ベトナム語の表記と発音について丁寧に説明し、1語から数語の文を正確に読み上げられるように練習しました。この段階では難しさを感じることも多かったと思いますが、実用的な会話を取り入れ、楽しみながらベトナム語の文法と語彙を習得してもらいました。挨拶、料理の注文し方、物の値段の聞き方やベトナム人と友達関係を築くための簡単なやりとりを、講師とクラスメートとペアで練習させました。受講生からは本講座を通じてベトナムを身近に感じられ、ベトナムのことをもっと知りたいとの声が多く寄せられ、非常に嬉しいことです。

初めてのベトナム語入門講座

担当: グェン タン タム

授業時間: 後期金曜日 4 限 (11 月 8 日、15 日、22 日、29 日、12 月 6 日)

授業目的:

ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。

ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。

日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容:

本講座の内容はベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものです。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

第1回 ベトナムの基本知識・あいさつ

第2回 ベトナムのユニークな所・自己紹介

第3回 ベトナムの料理・注文

第4回 ベトナムの旅行・買い物

第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題:

本講座では、受講生がベトナム語とベトナムの基礎知識を楽しく学べるよう工夫しました。写真や動画を用いて自然、文化、歴史を紹介し、受講生の関心に合わせた解説を行いました。発音練習では声調や音節に苦戦する場面もありましたが、繰り返し練習し、簡単な文を正しく読めるようサポートしました。また、実用的な会話表現を導入し、挨拶や注文、値段の聞き方などをペア練習で身につけてもらいました。本講座を通じて、ベトナムを身近に感じ、さらに知りたいと思ってもらえたことを嬉しく思います。

*コミュニティ通訳講座「非常食をたべてみよう」

担当: 吉田 理加

授業時間: 前期水曜日 3・4 限(4月24日、5月15日、29日、6月12日)

授業目的:

日本人学生と留学生が地震や自然災害などの非常事態をどのように対応するかを易しい日本語で考える。

授業内容:

「非常食をたべよう」というイベントを企画し、実際に非常食をたべながら、留学生と日本人学生が避難所や災害時の情報取得についてクイズなどを作成し、学んだ。

今期の総括/ End-of-Semester Review:

コースの最後に、グローバルセミナーでプレゼンテーションを実施し、活動をふりかえった。



*防災訓練におけるコミュニティ通訳 やさしい日本語

担当: 吉田 理加、エウニセ スエナガ

授業時間: 後期水曜日 3 限 (10月2日、9日、23日、31日、11月13日)

授業目的:

学内防災訓練における AED 救命講習をウィスパリング通訳すること。

授業内容:

参加者の言語(やさしい日本語、ポルトガル語、スペイン語)でウィスパリング通訳ができるように練習し、当日通訳した。その結果をグローバルセミナーで報告した。

今期の総括:

同時通訳となるウィスパリング通訳は難しかったようであるが、大学院生やスペイン語専攻の学生と共に、通訳を提供することができ、充実感があつたようである。



*:NEXUS Program

2.2.4 語学検定試験対策講座

英語力強化集中講座

担当: 福田 薫

授業時間: 前期水曜日 4 限

授業目的:

- ・リスニング、スピーキングを中心に、リーディング、ライティングも含めた総合的な英語運用能力の強化
- ・それらの付随的な結果として資格試験のスコア向上

授業内容:

- ・口頭によるスキル(リスニング、スピーキング)と筆記によるスキル(リーディング、ライティング)双方のトレーニングをおこなう
- ・英語で自分の考えを論理的に述べる経験を多く積めるよう、各履修者の関心の高いトピックを選び、動画リスニングやディクテーション、ディスカッションをおこなう。

今期の総括と課題:

当初の数週は、口頭によるスキル(リスニング、スピーキング)のトレーニングと筆記によるスキル(リーディング、ライティング)のトレーニングを週ごとに、交互に実施した。リーディングでは TOEIC 受験を予定している履修者に配慮して、TOEIC の公式問題集を用いた長文読解にも取り組んだ。中盤以降の週の授業では、留学を控えている学生、留学やワーキングホリデーを終えて復学した学生を中心に、TOEIC 対策よりもリスニングやスピーキングの機会を多く持ちたいとの希望があつたため、英語を話すこと・聞くことに特化し、毎回ディスカッションの機会を設けた。本講座は今年度より集中講義から通常講義へと授業実施形態の変化があり、授業時間が短く(1 コマ)なったため、ある程度の分量の長文読解は 1 週では終了せず、複数週にわたって細切れに取り組まざるをえなくなり、長文を集中的に読み通す訓練が出来なかった。これはリスニング・スピーキングでも同様のことが指摘でき、その週のトピックに基づいた動画や音声素材のリスニング、ディクテーション、それらに応用する形での当該トピックについてのディスカッションを組み合わせると、時間が足りなくなるため、いずれかを割愛したり、短縮したりして対応しなくてはならなかった。こうした点の検討・改善が必要である。

英語力強化集中講座(夏季)

授業時間: 9月5日(火)～13日(金) 9:30～11:00、11:10～12:40、13:30～15:00 (9/13のみ)

リスニング&スピーキング 10 講座、リーディング&ライティング 5 講座

担当: 福田 薫

授業内容:

英語能力が向上すれば、資格試験のスコアは必ず伸びる。本質的な英語力の涵養は、結果としてスコア向上にも寄与することとなる。こうした見地から、本講座では資格試験対策のテクニック習得によるスコアアップではなく、英語スキル自体の発展・向上を主眼とする。特に日本人には不得手とされる Listening や Speaking に対しより重点を置く。具体的には、ネット上で提供されている各種リソースを使用した聞き取り・聞き流しといった、英語を文字でなく音から理解する練習に触れたうえで、ディクテーション、シャドーイング、ペア・ワークやグループ・ワークによるスピーチや質疑応答、ディスカッションを介し、英語の文章を聞き取り、正しい文章で自分の意見を述べ、流暢に話せるようになることを目指す。これに付随して、より良い表現や応用例についても学び、Reading や Writing スキルの強化も図る。さらに、資格試験の公式問題集を使用した模擬試験を実施し、試験形式や時間配分を実際に体験する機会も設ける。

TOEIC Strategies: 10-Week Course

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 4th period

Objective:

- To become familiar with the kind of language on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This class was for students who already have some experience with the TOEIC. Using sections from an ETS-Oxford test preparation book, we went into detail about strategies for taking the TOEIC test. We spent most of the time trying out various time-saving techniques, as well as practicing best-guess strategies. We also studied important grammar points and developed semantic flexibility.

End-of-Semester Review:

This longer TOEIC course worked very well again, although with a smaller number of participants than in previous years. As discussed in the previous end-of-year report, I continued with the 公式 style of TOEIC instruction for this term, since it prepares students for their future experiences with TOEIC in the Japanese workplace. I conducted the class exactly as before, to the same results. I assume that as long as iCoToBa exists, TOEIC classes will be a part of it. Therefore, some version of this class could likely continue.

TOEIC Clinic (Separate Sessions)

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 5th period November 25th, December 2nd, 9th, Wednesday 5th period November 27th & December 18th

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc. This course was connected to an iCoToBa-based program for funding eligible students' TOEIC test fees.

End-of-Semester Review:

For this version of the TOEIC Clinic 2nd Semester short course was conducted in separate periods as before. This has been a necessary method because this course was connected to funding eligible students' TOEIC test fees. As in previous years, the class is mainly attractive to first and second-year students who have little experience with the TOEIC. The branding of this course seems to be working. Therefore, I was able to conduct the course as usual, with no major adjustments.

DELE B1 対策直前講座

授業時間:後期金曜日 5 限(10 月 18 日、25 日、11 月 8 日、15 日、22 日)

担当:アレハンドラ ゴンザレス

授業目的:

DELE スペイン語検定はスペイン 教育・職業訓練省の下に実施され、有効期限が無く、1989 年から始まった試験である。ヨーロッパ言語共通参照枠 MCER(CEFR)が定める A1 から C2 レベルまでの試験を実施している。本講座では B1 レベル合格を目標として、3 技能のレベルアップを図る。

CAPLE(外国語としてのポルトガル語検定試験)に挑戦しよう！

Vamos prestar o CAPLE!

授業時間:前期・後期 水曜日 4 限 (5 月 15 日～11 月 13 日 全 15 回)

担当:メロ ワジソン

授業目的:

ヨーロッパ言語共通参照枠の A2 レベルのポルトガル語能力を測定し認定する CIPLE という CAPLE(外国語としてのポルトガル語検定センター)の試験対策を教える。

授業内容:

ポルトガルのポルトガル語を扱う試験であるから、最初はブラジルのポルトガル語を主に勉強してきた学生のために、ポルトガルのポルトガル語を扱うテキストや生教材を使いながら、

多くの練習を行い、両国のポルトガル語の違い(文法、語彙、発音など)を覚え、ポルトガルのポルトガル語に慣らす。その後、過去にあった CIPLE の試験を使い、試験問題を解説する。

今期の総括と課題:

今回は、対話型アクティビティやグループディスカッションを通じて学生の口頭表現力や聴解力の向上を図り、一定の成果が見られましたが、発話の積極性や文法力の向上において課題が残りました。来年度は、基礎文法の復習を取り入れるとともに、CIPLE 試験の最新情報に基づき模擬試験を充実させ、学生の自信向上を目指します。また、リスニングや発音練習に特化したデジタルツールを導入し、個別学習の機会を増やすほか、学生からのフィードバックを反映したセッションを定期開催します。これらの取り組みを通じて、CIPLE 合格率の向上や、卒業後もポルトガル語を使い続けられる環境づくりに努めます。

日本語能力試験対策講座

授業時間:後期水曜日 3 限 (10 月 30 日、11 月 6 日、13 日、20 日、27 日)

担当: 都築 順子

授業目的:

日本語能力試験直前に開催する5回のみの講座であるため、試験本番を意識して、できるだけ多くの問題に触れることを目的とした。そのため、過去の問題や実践問題の演習を通して、それぞれの問題の解き方に慣れることをめざした。

また、読解問題などは限られた時間内で数多くの問題に答えなければならないため、解き方のコツを紹介した。

授業内容:

今回は、N1～N4 の4レベルの学生が受講し、授業前の希望調査で、学習希望科目(語彙、文法、読解、聴解)も様々だったため、「寺子屋方式」(それぞれが異なる問題を各自で解答し、その場で答え合わせをする。わからないところなどは教師が個別に対応する)で授業することとした。

まず、各自希望レベル(N1～N4)の希望科目(語彙、文法、読解、聴解)の問題を解いてもらい、各自で答え合わせをしてもらう。その後、学習者から出る質問について、教師が解説した。

聴解問題のみ、2回目の授業で N4 レベル、3回目の授業で N3 レベルというように、順次1回ずつ行った。

また、読解問題は授業時間内では時間が足りないため課題とし、授業内では答え合わせと解説のみを行った。

今期の総括と課題:

アンケート結果を見たところ、多くの問題を解くことができた点は評価されたが、JLPT の文法についてもっと説明がほしかったという指摘があった。

そこから考えると、今回は「寺子屋方式」で授業を行ったが、学習者のニーズとずれていたのかもしれない。学習者は、直前対策として受講したのではなく、将来受験する JLPT に役立つよう、文法を習得する、あるいは復習することを期待して受講していたのかもしれない。そうであるならば、クラスを大まかに2レベルに分け、教師主導で文法確認を行い、その後、

復習問題を行うという形式の授業をしたほうがよかったと考えられる。

したがって、次回以降は、ニーズ分析をアンケートだけで済まらず、一人一人から丁寧に聞き取りを行い、学習者のニーズに応えていきたいと考えている。

2.2.5 イベント・ワークショップ型講座

iCoToBa Open Screen 1

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 4th & 5th periods

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

This was a weekly movie screening featuring English-language movies. Each week I showed a film after giving a short introduction to it. Afterwards, participants engaged in a short discussion.

End-of-Semester Review:

In this semester I tried to link the film viewing to contemporary films in East Asia I showcased movies from China, Korea, Taiwan, and Japan, as well as American films that had a strong box office performance in these countries. I had hoped to attract students from majors and interests besides English. However, this did not succeed, and attendance was poor. In the second semester, I made a final try at this movie screening as a full iCoToBa class for the one or two students who join regularly. See the above section for details.

D&D at iCoToBa

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Friday 5th and 6th periods.

Objective:

- To build English and intercultural communication skills through tabletop roleplaying games
- To try a new type of activity for Japanese and international exchange students to connect.

Course Contents:

This was a short campaign in the Dungeons & Dragons tabletop roleplaying game, conducted in English at the center. Two exchange students expressed interest in playing the game at iCoToBa and I offered to organize it. The regular participants included three exchange students, one Japanese student, me, and one more English teacher. The game was played as it would be in a native English environment, meaning that sessions included rules explanations, character creation and idea sessions, and full gaming sessions.

End-of-Semester Review:

This was a rather serendipitous chance that brought together exchange students from different countries, as well as Japanese students of mixed cultural backgrounds, and even other teachers. A few other students opted not to play but sat in on the sessions and watched the games. The

fun and exciting nature of tabletop roleplaying games made this whole activity a success without too much effort. As a space of communal bonding and intercultural sharing using English and shared interests, it was a great attainment. However, I imagine that this activity would be hard to duplicate and even more so to turn into a regular course. Of course, if circumstances make it possible in the future, I highly recommend it.

iCoToBa Open Screen 2, Course Version

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Wednesday 3rd and 5th periods.

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai
- To shift iCoToBa's screenings from drop-in form to regular extended class

Course Contents:

This was a weekly movie screening featuring English-language movies. Each week I showed a film after giving a short introduction to it. Afterwards, participants engaged in a short discussion. This semester, I opted to turn it into a regular class style, based on the democratic classroom model I have used in other classes. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided on the movies to watch and topics to discuss, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help.

End-of-Semester Review:

Since the drop-in style of screenings had not been attracting many students, I opted to try a final time with a regular course holding. Only one student joined, a life-long learner who had been attending the drop-in sessions. His chosen goal was to understand the American film concept "noir." Therefore, we choose classic Hollywood films from the 1940s, as well as revisionist "neo-noir" films from the 1970s and ending with the noir-influenced cyberpunk films of the 1980s. During the discussion sessions, we talked about the elements that American viewers recognize as "noir" on visual, story, and ideological levels. His knowledge and ability to discuss film in English increased, though his ability to retain new vocabulary was limited. This class version was successful for this one student. However, it has become clear that extended movie viewings are not an attractive on-campus activity for most students. Again, iCoToBa's role in campus life seems to be relegated to a "one semester, one period" style of course.

受講者の声

教育福祉学部 社会福祉学科 2 年 小川 珠実

私は、「英語を話せるようになりたい!」と思い、この講座を申し込みました。毎回、テーマとそれに関する単語が用意されていて、「その単語を英語でどのように説明できるか。」や「その単語を使った例文を作る。」などアウトプットが多く、とても良い授業でした。また、テーマにまつわる自分の体験談や考えを共有する機会が多く、学部・学年が異なる受講生の様々な考えや価値観を知ることができ、とても勉強になりました。先生や他の受講生の方々が本当にやさしく、

一緒にペースで英語を勉強できました。少人数クラスということもあり、アットホームで先生や受講生の方々と英語をたくさんお話できて本当に楽しかったです。英語が苦手だけれど、簡単な英語から始めたいという方にぜひこの講座をおすすめしたいです。

参加でき、本当に良かったです。ありがとうございます。
(初心者向けフリートーク:ボキャブラリーと簡単なディスカッション受講)

外国語学部 中国学科 2 年 杉田 恵理

私は 2 年生前期に iCoToBa の講座「留学之前話中国」を受講しました。授業の内容は生徒のレベルに合わせて決めてくださっていて、一緒に受講していた方のレベルがとても高かったこともあり、90 分間中国語のみで今週あったことや、中国時事について会話していました。初めは「自分にはちょっときびしいかも…」と思っていましたが、講座を重ねるうちに聞き取れるようになり、自分の意見が言えるようになりました。また、先生とワンツーマンで講座を受けた際には発音矯正までしていただき、日々正確な発音を心がけるようになりました。すべての講座を経て学科の講座で学んだ文法や表現は実際に使わないと身につかないということ、間違えることを恐れなくてもよいということを学びました。
(留学之前話中国 受講)

外国語学部 国際関係学科 2 年 佐野 愛子

私は、2024 年度の前期に開講された Miyazaki class を受講しました。このクラスでは、宮崎駿作品を視聴し受講者と先生で意見交換をしました。授業でどの映画を視聴するか、何について話し合うかなどもすべて生徒同士で話し合って決めることができたことがとても楽しかったです。英語で自分の意見を述べることは難しかったですが、先生のサポートもあり楽しく参加することができました。アイコトバの講座は、普通の授業よりも生徒の数が少ないのでより活発に討論することができ、先生との距離も近いので質問もしやすいです。様々なレベルや分野の講座があるので、自分のレベルや興味に合った講座を受講するといい英語の勉強になると思います。
(iCoToBa Nexus プロジェクト: 日本のポップカルチャーについて話しましょう『宮崎駿』編 受講)

2.2.6 iContact(あいこんたくと)

2024 年度の iContact は、iCoToBa のハック教員と教養教育センター外国人教員 3 名が担当する英語とブラジル政府派遣講師によるポルトガル語、留学生の SA(スチューデント・アシスタント)が担当する言語(英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語)で実施した。担当した学生は前期 28 名(英語 2、フランス語 3、ドイツ語 1、スペイン語 5、ポルトガル語 2、中国語 14、韓国語 1)、後期 16 名(フランス語 4、スペイン語 1、ポルトガル語 5、中国語 5、韓国語 1)であった。教員との iContact は、予約時に対面またはオンラインを選択可能とした。オンライン iContact を利用する学生も一定数はおり、オンラインの利点を生かして活用していきたい。2024 年度の iContact 実施実績を表 6、表 7 に示す。

[表 6 2024 年度前期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	iCoToBa 専任教員 教養英語専任教員	130	310	32.5
ポルトガル語	ブラジル政府派遣講師	26	73	6.5
英語	留学生	15	95	7.5
フランス語	留学生	45	83	22.5
ドイツ語	留学生	7	35	3.5
スペイン語	留学生	58	172	29
ポルトガル語	留学生	20	68	10
中国語	留学生	119	305	59.5
韓国語	留学生	15	47	7.5
合計		435 回	1,188 人	178.5 時間

[表 7 2024 年度後期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	iCoToBa 専任教員 教養英語専任教員	144	301	36
ポルトガル語	ブラジル政府派遣講師	25	45	6.25
フランス語	留学生	52	108	30.5
スペイン語	留学生	20	27	10
ポルトガル語	留学生	81	170	45.5
中国語	留学生	74	119	41
韓国語	留学生	12	25	10
合計		408 回	795 人	179.25 時間

Teacher's Voice

Ben FILER (Liberal Education Center)



I have really enjoyed the past year of iContact sessions in iCotoba. I have met a wide range of students from a variety of departments and grades. The students seem to appreciate the laidback nature of the sessions, and hopefully this allows them to relax and speak more fluently than they can in a regular class. I try to let the students lead the sessions by talking about what they want to which keeps them motivated. There have been some

occasions where the students have a clear idea of what they want to talk about with topics ranging from a discussion on world politics to playing board games in English. However, the majority of students like to just talk in general about what they have been doing recently. I am looking forward to continuing with iContact in the next academic year.

Craig JONES (Liberal Education Center)

iContact was very productive in 2024/25. The atmosphere in the iCoToBa was great and it continues to provide an excellent place for international students to interact with Japanese students. I had face to face appointments with students from a variety of different departments. iContact was also available online for students that were unable to attend face to face. iContact allows me to get to know students from a variety of different departments. I look forward to contributing to the iCoToBa in anyway I can in the future.



Christopher WYLE (Liberal Education Center)



The 2024 iCoToBa sessions were interesting for me and I found meaning in meeting both new students as well as those who have been meeting me in Icontact for a number of years. As with every year, there are opportunities to meet students that I don't normally teach - for example students in the EiBei department - as well as others I have either in my current courses or those I taught in the past. One of the best aspects of iContact this year, as with every year, is a chance to speak with many students from a variety of backgrounds and majors. I feel that students also benefit from interacting with me as well as the other teachers who represent a diverse variety of backgrounds. I enjoyed this year's iCoToBa iContact sessions and I believe the students also feel they come away from our meetings with something of value.

Melo WADISON (Liberal Education Center)

Este foi meu terceiro ano lecionando português na Universidade da Província de Aichi, e novamente o iContact me proporcionou momentos valiosos com os alunos. Fiquei impressionado com o entusiasmo dos estudantes ao compartilhar suas experiências de aprendizado e curiosidades sobre o Brasil. Senti também que a confiança dos estudantes em usar o português aumentou, o que me motiva a continuar promovendo mais atividades interativas. Estou ansioso para continuar essas trocas no novo ano letivo, esperando alcançar ainda mais estudantes no iCoToBa.



愛知県立大学でポルトガル語を教えて3年目になり、今年も iContact で学生たちと貴重な時間を過ごすことができました。学生たちが学習経験やブラジルについての好奇心を積極的に共有してくれる姿に感動しました。また、学生たちのポルトガル語を使う自信が以前よりも高まっていると感じ、これからもこうしたインタラクションの活動を充実させていきたいと思っています。新年度もさらに多くの学生と交流できることを楽しみにしています。

Student's Voice

席 青春（日本文化学部 歴史文化学科3年）



まず、iContact への参加を通じて、中国学科の学生や中国語に興味を持つ学生と中国語で会話する機会を得られたことは、彼らの中国語学習を支援するうえで非常に意義深いと感じています。日本に留学する身として、自分の知識や経験を活かし、他者の学びをサポートすることで、大きなやりがいを感じています。

さらに、iContact を通じて、多くの友人を作ることができたのも素晴らしい経験でした。その友人たちとともに、日本の観光地を巡りながら風景や歴史に触れる体験を共有したり、餃子パーティのようなイベントを通じて和やかな交流のひとときを過ごしたりしています。こうした活動を通して、相互理解を深め、文化交流をより豊かなものにできたことは、私にとってかけがえのない体験となっています。この経験が、異文化理解の大切さを改めて教えてくれました。

首先，通过参加 iContact，我有了与中国学科的学生以及对汉语感兴趣的学生用汉语交流的机会。这对他们的汉语学习起到了帮助作用，让我觉得非常有意义。作为一名在日本留学的学生，我能够利用自己的知识和经验支持他人的学习，这让我感到非常有成就感。

此外，通过 iContact，我还结交了许多朋友，进行着各种文化交流。比如一起去日本的著名景点旅游，举办饺子派对等等活动。这些经历让我深刻感受到通过相互理解促进文化交流的重要性，并使文化交流变得更加丰富多彩。这段经历对我来说是无可替代的，也让我

再次认识到多文化理解的重要性。

デ ソウザ ガブリエル（サンパウロ大学 交換留学生）

ポルトガル語を日本人に教えることができた iCoToBa での経験は、私にとって大きなチャンスでした。最初に気づいたのは、県大のポルトガル語専攻の学生たちは、ブラジルよりもポルトガルに興味があることと気づきました。その生徒たちはブラジルでのポルトガル語を学んでいるけど、ブラジルの文化や習慣についてあまり知らないようでした。ですから、言語自体だけでなく、ブラジルの日常や習慣とブラジルでのポルトガル語の特徴も教えることが面白くて楽しかったです。

また、学生たちと交流することで、私は日本の文化や言葉についてもたくさん学びました。日本人との交流は、自分の文化を新しい視点で見るいい機会でした。iCoToBa での経験は、すごく特別で、いろんな考え方を学び、将来のことを考えるきっかけにもなりました。うまくいけば、いつか日本人にポルトガル語を教える先生になりたいと思っています。

Acredito que ensinar português aos japoneses no iCoToBa foi uma grande oportunidade para mim. Num primeiro momento, percebi que os estudantes do curso de português da Universidade da Província de Aichi estão mais interessados em Portugal do que no Brasil. E, apesar de estudarem principalmente o português brasileiro, vejo e sinto que não conhecem muito sobre a cultura, costumes e as tradições brasileiras. Por isso, além de interessante, foi muito incrível ensinar não só sobre o idioma, mas também sobre a vida cotidiana no Brasil e as peculiaridades do português brasileiro. Além disso, sinto que também aprendi muito e aprofundei minha meus conhecimentos em relação a cultura e língua japonesa por meio de minhas interações com os alunos. O intercâmbio linguístico e cultural com eles foi uma oportunidade valiosa para que eu tivesse uma visão e uma nova perspectiva sobre minha própria cultura. O iContact foi definitivamente uma experiência incrível e única, não só me trouxe diversas visões de mundo diferente, como também me ajudou a refletir sobre o meu futuro. Se der tudo certo algum dia, penso e gostaria de me tornar professor de português para japoneses! :)



羽田 愛月（外国語学部 英米学科 3 年）

私は県大に入学して以来、iContact を利用しています。きっかけは自分の英語力に対するコンプレックスでした。県大に入学するまでスピーキングやリスニングの経験を十分に積んでいなかったため、英語で行われる大学の授業についていけず周りの学生に遅れをとっており、先生の指示が聞き取れず何をすればいいのかわからないことが多々ありました。そこでとにかく実践的に英語を聞いたり話したりする機会を増やそうと考え、iContact に参加するようになりました。初めは英語で話せる話題ばかり探していましたが、今では英語で世間話もするようになり少しは成長したのかなと感じます。そして何より英語を話す中で失敗することへの不安が小さく

なりました。私がお世話になっている Brett 先生は日本語も流暢な方なので、英語の表現がわからない日本語については質問すれば丁寧に教えてくれます。iContact は私のように英語に自信がない人ほどおすすめです。ぜひ利用してみてください。

金谷 莉奈（外国語学部 ドイツ語圏専攻 4 年）



教養教育科目として履修したポルトガル語を継続して学びたいと思い、iContact の利用を始めました。もともと外国語での会話には苦手意識があり、知っているはずの単語が出てこなかったり、言葉が上手く聞き取れず悩むことは何度もありました。けれども先生がその都度言い方を変えてくださったり、会話を広げてくださったおかげで、次第に自身も決まった言い方にこだわりすぎず気持ちを表現し、会話そのものを楽しめるようになりました。これは、授業でテキスト

を読んだり問題を解くだけでは気づけなかったことだと思います。

iCoToBa では他に講座にも参加しましたが、こうした場所がきっかけで語学検定や弁論大会に挑戦し、結果を残すことができました。3、4 年次は専攻の授業や就職活動、卒論等さまざまなことを抱えながらでしたが、その分学ぶ楽しさや喜びを多く味わえたと思います。良い息抜きにもなっていました。本当にありがとうございました！

2.2.7 海外大学の学生とのオンライン交流



2021 年度から始まったグアダハラ大学（メキシコ）との交流会は、オンライン日本語会話ボランティアとして引き続き実施している。秋学期・冬学期にあわせて 23 名が参加した。

3 留学報告会

iCoToBa での留学報告会は、週に一度、昼休みに定期的に行っている。今年度は毎週月曜日に開催し、協定大学からの帰国者には報告を義務付けた。この報告会では、留学体験者が留学先での学修や異文化体験などの紹介を通して、自身の学びをふりかえること、そして、

これから留学を考える学生と、留学準備や現地情報等を共有することを目的としている。

2024 年度は、前・後期あわせて 22 回の報告会が開催された。報告者は学生目線で、留学を考える学生が必要とする内容の資料を準備して発表した。毎回、参加者からは具体的な質問が多くあり、有益な情報提供の場となった。

2024 年度に開催した留学報告会の実施実績を表 8、表 9 に示す。

〔表 8 2024 年度前期 留学報告会実施実績〕

月日	留学先	国名	参加者数
5 月 6 日	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	スペイン	7
5 月 13 日	ウーロンゴン大学	オーストラリア	13
5 月 20 日	リール大学	フランス	7
5 月 27 日	テイラーズ大学	マレーシア	7
6 月 3 日	チュービンゲン大学	ドイツ	7
6 月 10 日	リューネブルク大学	ドイツ	6
6 月 17 日	アリゾナ州立大学	アメリカ	8
6 月 24 日	メモリアル大学	カナダ	13
7 月 1 日	セビリヤ大学	スペイン	9
7 月 8 日	東海大学	台湾	7
7 月 15 日	トゥールーズ大学 ジャン・ジョレス校	フランス	6
7 月 22 日	プンペウ・ファブラ大学	スペイン	3
12 回開催 参加者のべ数			93

〔表 9 2024 年度後期 留学報告会実施実績〕

月日	留学先	国名	参加者数
10 月 28 日	静宜大学	台湾	3
11 月 11 日	テイラーズ大学	マレーシア	3
11 月 18 日	ケベック大学モントリオール校	カナダ	6
11 月 25 日	ケルン大学	ドイツ	8
12 月 2 日	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	スペイン	3
12 月 9 日	ニューカッスル大学	イギリス	3
12 月 16 日	東呉大学	台湾	4
1 月 6 日	韓国外国語大学	韓国	4
1 月 20 日	ゲント大学	ベルギー	5
1 月 27 日	リール大学	フランス	5
10 回開催 参加者のべ数			44



[5月13日 ウーロンゴン大学]



[6月24日 メモリアル大学]



[11月18日 ケベック大学モントリオール校]



[12月9日 ニューカッスル大学]

4 グローバルセミナー

iCoToBa グローバルセミナーは、2017 年度から始めた取り組みである。本学の教員や外部有識者を招き、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などについて紹介し、議論できる場をつくることを目指したものである。本学のグローバル事業が全学化されたことにともない、学生と教職員が交流できる場として設定された。2024 年度はほとんどのセミナーを対面とオンラインのハイブリッドで開催した。オンラインでの配信を併用することによってより多くの学生や教職員が参加することができた。オンラインセミナーを視聴するための Office365Teams の Global / iCoToBa チームの参加登録者数は 376 人になった。2024 年度に開催したグローバルセミナー一覧を表 10 に示す。(以下、講師の敬称略)

日本の市町村合併について

講師: クラマー スペン(歴史文化学科)

日本は国際的に見ても市町村合併を積極的に実施している国である。「市町村」とは日本の基礎的な公共団体(行政区画および自治体)の総称で、その数を廃置分合で減らす政策は「市町村合併」と呼ばれている。日本は明治時代から現在まで3つの「大合併」を実施し、市町村の数を70,000以上から1,500程度に減らした。

近代日本の地方制度は1880年代にドイツの法律を模範に整備された。その結果の1つは市制と町村制という法律の制定である。施行をきっかけに最初の大合併が実施された(「明治の大合併」)。次の大合併は戦後の改革の一環として1950年代に実施された(「昭和の大合併」)。そして、今まで最後の大合併は少子高齢化の影響で2000年代に実施された(「平成の大合併」)。本セミナーは日本の市町村合併政策の背景と「大合併」の特徴を検討する。また、近代日本の地方制度はドイツ(特にプロイセン)を模範に整備されたので、ドイツの市町村合併政策についても簡単に述べる。



[4月24日グローバルセミナー]

「災害を考える」メディア制作プロジェクト成果発表

— iCoToBa Nexus プログラムにおけるメディア制作 —

講師: Brett HACK (iCoToBa 多言語学習センター)

地震や津波などに加え、気候温暖化の影響による異常気象、パンデミックなど、災害が加速度的に増えていく現代をどうやって生き抜くか? iCoToBa Nexus プロジェクトでは、「災害」というテーマで、行政面と文化面を考える対談イベントシリーズで、県大の教員たちが学際的な解決策を考え出し、その対談イベントをベースにビデオを制作しました。

イベント企画と司会、ビデオ撮影と編集はすべて学生チームが担当しました。このプロジェクトから得られた成果を皆さんと共有し、制作したビデオの一部をご覧いただきたいと思います。



[5月15日 グローバルセミナー]

ブラジルとポルトガルでのゲスト講師としての経験

講師:スエナガ エウニセ(教養教育センター)

2024 年 3 月、本学の協定校であるブラジルのサンパウロ大学及びポルトガルのミーニョ大学で一週間ずつ講義を行いました。サンパウロ大学では哲学文学人間科学部が主催するサマースクールで日本の古典文学『源氏物語』について講義をしました。ミーニョ大学には Erasmus+プログラムの枠組みで派遣され、日本の古典文学、日本文学のポルトガル語訳、そして日本でポルトガル語を教える経験について話しました。それぞれの大学の文学部日本語学科やその他の学科の学生や教員と触れる貴重な経験でした。サンパウロには家族が住んでいるので、実家を訪れたりブラジルに留学中の県大の学生と会ったりしました。ミーニョ大学のあるブラガは古い歴史を持つ街ですので、授業の合間に博物館や教会を訪れる機会がありました。



[5 月 29 日グローバルセミナー]

コミュニティ通訳講座「ひじょうしよくをたべてみよう！」実践報告

講師: 吉田 理加(外国語学部ヨーロッパ学科スペイン・ポルトガル語圏専攻)

大学院国際文化研究科)

iCoToBa コミュニティ通訳講座の活動として、「ひじょうしよくをたべてみよう」を実施しました。その際に、非常食の食べかた、防災クイズ、ハラル食の見分け方などをやさしい日本語で発表した学生たちが振り返りを報告しました。「やさしい日本語」は「難しい」というのが共通の感想でした。また、留学生だから防災知識がないわけではなく、留学生と日本人学生がともに協力しながら知識や実践スキルを補完しあえることも報告されました。



[6 月 12 日グローバルセミナー]

リヒテンシュタイン：アルプス小国家の成立と発展

講師：今野 元(外国語学部ドイツ語圏専攻)

リヒテンシュタイン侯国は、ドイツ語圏内ですら知名度が低いが、強大な君主制と安定した経済とが特徴のアルプス小国家である。本講座は、このリヒテンシュタイン国家の歴史及び現状を三部構成で振り返った。第一部では、リヒテンシュタイン家がハプスブルク家の家臣として奉仕し、神聖ローマ帝国に独立した侯国を得た経緯を説明した。その際、リヒテンシュタイン家のヴィーン近辺あるいはメーレンの建築物なども紹介した。第二部では、ナポレオン戦争、オーストリアのドイツからの締め出し、二度の世界大戦を経て、リヒテンシュタイン国家が主権国家として確立する過程を解説した。その際、とりわけドイツ・ヒトラー政権との関係で、リヒテンシュタインがドイツの一部であると称しなくなった経緯を説いた。第三部では、現君主ハンス＝アダム二世のもとで経済発展を遂げ、指導者民主主義的君主制を確立した理由を叙述した。そこでは、この君主の特異な政治思想及びその影響について紹介した。



[7月3日グローバルセミナー]

日中言語対照分析から見る中国語表現の特性

講師：趙 宏剛(外国語学部中国学科)

このセミナーでは、対照言語学の視点から、日本語と中国語の口語表現を中心に、日常会話や文章作成における特徴と相違点を詳細に観察しました。観察結果を基に、中国語の語彙や構文の効果的な学習方法を提案し、外国語学習や教育過程での言語比較の重要性を強調しました。このセミナーの内容は、実際の授業から得られた知見を基にしており、関連する理論を交えて説明されました。講師は具体的な例を用いて受講者との交流を図り、講座の内容への理解を深め、今後の外国語学習への意欲を高めることを目指しました。



[10月16日グローバルセミナー]

東アジア文化圏における民話と教材化の歴史

講師：黒川 麻実(教育福祉学部 教育発達学科)

これまで小学校国語教科書には様々な物語教材が採録され、その中には東アジアの民話も教材として登場してきました。その中で、「三年峠」や「恩知らずの虎」といった朝鮮半島に伝わる民話教材は、戦前の植民地で使用されていた教科書(読本)に登場し、その中身を当時の植民地教育に沿うような形で内容を一部変えられたという経緯が存在します。民話には特定の作者がおらず、古くから口伝えで継承されてきたというメディア特性があり、そのためこうした現象が引き起こされたということがこれまでの研究により明らかになってきました。また、「古屋の漏り」という日本の民話は、朝鮮半島では「虎と串柿」という非常に内容の似た民話が存在しています。このように民話は一つの東アジア文化圏の人々の交流の足跡を知る手掛かりとして、また教材化という力場を介したときに、イデオロギーがいかに関与しているかを見取る素材として、民話(教材)には研究の可能性が幅広く存在しています。民話(教材)の歴史を、“教育文化史”として事例を重ねながら、これからも追及していきたいと考えています。



[10月23日グローバルセミナー]

世界のオープンイノベーションとスタートアップ情勢

講師：神谷 幸宏(情報科学部・ICT テクノポリス研究所)

約 30 年前、世界の企業価値ランキングのベスト 10 のほとんどは日本企業でした。それが今、日本企業は 1 社もその中に入っていない。今のベスト 10 はアメリカと中国の企業がほとんどです。また、現在のベスト 10 の顔ぶれには 30 年前と質的な違いもあります。それは、現在のベスト 10 企業のほとんどがスタートアップと言われる企業が発展したものであることです。30 年前のリストは銀行や財閥、または政府機関から分離してできた企業ばかりでした。

そして今、日本の産業政策の中心である経済産業省が、これからの日本の経済を牽引するのは大企業ではなくベンチャー企業(スタートアップ企業を含む)と言っています。スタートアップとはなにか、そしてなぜ、大企業ではなくスタートアップが経済を牽引と言われていているのか。その背景にはデータが付加価値の源泉になるという、これも 30 年前には考えられなかった産業構造の根本的な転換があります。この新しい産業構造への期待の中で大学が、そしてこれから世の中に出る大学生が新しい役割を担うことも期待されています。このような面で先行するフランス、中国、アメリカの事例から重要な示唆が読み取れます。



[10 月 30 日グローバルセミナー]

コミュニティ通訳入門講座

「防災訓練における AED 救命講習/ウィスパリング通訳」実践報告

講師: 吉田 理加(ヨーロッパ学科スペインポルトガル語圏専攻/国際文化研究科)

エウニセ スエナガ(教養教育センター)

講座では、防災訓練時に行われる AED 救命講習で、機器を使って通訳できるように、講習でどのような説明がなされるか、事前に各言語で調べ準備した。外国語での同時通訳が難しい学生はやさしい日本語での通訳を試みた。実際の訓練で実践できたことは、緊張感とともに達成感があり、学生にとっては貴重な経験となった。



[11 月 13 日グローバルセミナー]

Competencias transversales en la Universidad 大学における横断的コンピテンシー

講師: María del Mar Sanju María del Mar Sanjuán Roca
(サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学教育科学学部)

コンピテンシーは、学問的、社会的、職業的なさまざまな文脈に適用される「ノウハウ」として概念化されています。異なる文脈への移行を可能にするためには、コンピテンシ(能力)に含まれる知識の理解と、それを構成する実践的なスキルや能力との関連付けが不可欠です。本セミナーでは、大学において求められる、横断的なコンピテンシーに基づく教育について、大学生にもわかりやすく説明しました。専門スペイン語(コミュニティ)履修学生が西語・日本語の同時通訳を担当し、有意義な実践の場になりました。



[12月11日グローバルセミナー]

Fernão Mendes Pinto e o Japão —フェルナン・メンデス・ピントと日本—

講師: Sérgio Paulo Guimarães de Sousa (ミーニョ大学文学芸術人間科学部)

1543年にポルトガル人が種子島に漂着し、日本に鉄砲を伝えたというのは有名な話です。その後1636年に追放されるまで多くのポルトガル人商人や冒険家、イエズス会士たちが日本を訪れ、日本についての記録を残しています。そのうちの一つ、16世紀中旬に日本を訪れたポルトガル人冒険家フェルナン・メンデス・ピントの『アジア放浪記(Peregrinação)』は、当時の日本を含むアジアの状況を知ることのできる大変貴重な書物です。2022年にポルトガルで Assírio & Alvim 出版社より新しく刊行された『アジア放浪記』の編者として、フェルナン・メンデス・ピントと日本との関係や、当時の日本とポルトガルの交流などについてお話しします。



[1月8日グローバルセミナー]

「並び方」の考察:昭和の川型から令和のフォーク型へ 待ち行列理論の研究成果とその社会実装

講師:奥田 隆史(情報科学部)

2024 年の秋、待ち行列理論を研究している私は、某 TV 局番組の取材を受ける機会がありました。昭和と平成時代のライフスタイルの違いを比較する番組です。取材内容は、“昭和時代の公共での「並び方」は川型だったが、現在はフォーク型になってきているが、その理由を科学的に説明してくれないか”でした。法律で決められているわけではないですが、公共での「並び方」が川型からフォーク型になりました。最近のスーパーには、川型のレジとフォーク型のセルフレジが導入されています。なぜ「並び方」が川型からフォーク型に変わったのでしょうか？待ち行列理論・応用数学・情報科学の研究成果の社会実装・普及という視点で考察します。また本学における業務改善(仕事の行列を減らす)への貢献可能性、社会実装・普及の分析には人文社会系分野の力が必要なことについても触れようと思います。



[1 月 15 日グローバルセミナー]

[表 10 2024 年度開催グローバルセミナー一覧]

月 日	講 師	タイトル	参加 者数
4/24	クラーマー スベン (歴史文化学科)	日本の市町村合併について	28 (49)
5/15	Brett HACK (iCoToBa 多言語学習センター グローバル実践教育推進室)	「災害を考える」メディア制作プロジェクト 成果発表 ーiCoToBa Nexus プログラムにおける メディア制作 ー	14 (13)
5/29	スエナガ エウニセ (教養教育センター)	ブラジルとポルトガルでのゲスト講師として の経験	15 (22)
6/12	吉田 理加 (ヨーロッパ学科スペインポルトガル 語圏専攻国際文化研究科)	コミュニティ通訳入門講座「ひじょうしよく をたべてみよう！」実践報告	17 (20)
7/3	今野 元 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)	リヒテンシュタイン： アルプス小国家の成立と発展	18 (32)
10/16	趙 宏剛(中国学科)	日中言語対照分析から見る中国語表現 の特性	8 (20)
10/23	黒川 麻美(教育発達学科)	東アジア文化圏における民話と教材化の 歴史	11 (21)
10/30	神谷 幸宏 (情報科学科 ICT テクノポリス研究所)	世界のオープンイノベーションとスタート アップ情勢	15 (25)
11/13	吉田 理加 (ヨーロッパ学科スペインポルトガル 語圏専攻国際文化研究科)	コミュニティ通訳入門講座「防災訓練にお ける AED 救命講習/ウィスパリング通訳」 実践報告	14 (10)
12/11	María del Mar Sanjuán Roca (スペイン・サンティアゴ・デ・コンポス テラ大学教育科学学部)	Competencias transversales en la universidad 大学における横断的コンピテンシー	45
1/8	Sérgio Paulo Guimarães de Sousa (ミーニョ大学文学芸術人間科学部)	Fernão Mendes Pinto e o Japão フェルナン・メンデス・ピントと日本	14 (18)
1/15	奥田 隆史 (情報科学科)	「並び方」の考察:昭和の川型から令和の フォーク型へ 待ち行列理論の研究成果とその社会実 装	17 (27)

()内はオンライン参加者数

5 iCoToBa のイベント

iCoToBa では、異文化理解および異文化交流の促進を目的に、さまざまなイベントを開催している。2024 年度に実施したイベント一覧を以下表 11 に記す。

[表 11 2024 年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数
4 月 8～17 日	9:00-18:00	EGG HUNT	80
4 月 12 日	14:30-16:30	Pancake Event	84
5 月 8 日	14:00-16:00	Welcome Party	51
6 月 26 日	13:30-16:00	書道大会	14
7 月 2 日	12:15-12:40	レシテーション大会説明会	5
7 月 3 日	15:00-16:30	わらび餅パーティー	18
7 月 10 日	13:00-15:00	Farewell Party	23
10 月 9 日	14:00-16:00	Welcome Party	51
11 月 2 日	10:50-12:30	第 14 回レシテーション大会	47
11 月 27 日	14:15-16:30	絞り染め体験	3
12 月 4 日	14:00-16:00	Christmas Party	15
1 月 15 日	14:00-16:00	Farewell Party	5

ISC 活動報告

外国語学部 英米学科 3 年 西川 綾音

ISC (iCoToBa Supporters Club) とは、多言語学習センター iCoToBa で留学生と日本人学生の交流をサポートする団体です。私は今 3 年生で、1 年生の頃からこの団体で活動をしています。これまで様々なイベントを企画・運営してきましたが、一番印象に残っているものは、最初に企画した七夕イベントです。入学当初、コロナ禍の制限が緩和されたばかりで iCoToBa の利用者は少なく、イベントの参加者数も激減していました。そこで、



同級生に iCoToBa の今のイメージに関する聞き込みを行いました。すると敷居が高いと感じている学生が多いことが分かり、iCoToBa の温かみや多文化交流の面白さが学生に知られていない現実を知りました。もっと気軽に入室できる案はないか、メンバーで話し合っていたときに、ちょうど近くのショッピングモールで「七夕の短冊を飾るとシールプレゼント」というイベントを見かけ、これだと思いました。このイベントの形を参考にして、iCoToBa らしく「好きな言語で短冊に願いを書こう(お菓子プレゼント)」というイベントを開催することにしました。また、「まだ入室し

たことのない方、大歓迎」をキャッチフレーズに、許可をもらい学内にポスターを張り、SNS等で宣伝を行いました。結果、イベント参加者は 80 名を超え、従来の4倍以上の参加者獲得が実現しました。その後も、ハロウィンやイースターなど様々なイベントを行っていき、今では毎日たくさんの学生と留学生で iCoToBa が賑わっています。これからも ISC として学内の多文化交流を全力でサポートしていきます。



[2024 年 4 月 12 日 Pancake Event]



[2024 年 6 月 26 日 書道大会]



[2024 年 7 月 10 日 Farewell Party]



[2024 年 10 月 9 日 Welcome Party]



[2024 年 11 月 2 日 第 14 回レシテーション大会]



[2024 年 12 月 4 日 Christmas Party]

2024年度 第3回 グローバルセミナー @iCoToBa

ブラジルとポルトガルでの ゲスト講師としての経験

スピーカー
スエナガ エウニセ
教養教育センター

5.29 水
12:10-13:00

場所
CroCuS (クロッカス)

※iCoToBaグローバルセミナーは、毎月2回水曜日の昼に開催するカジュアルなセミナーです。グローバルな話題について、学部や専門を超えて話し合おう！

※オンラインでも観覧いただけます！

※セミナーの観覧方法
県大のOffice365 Teamsで「コードでチームに参加する」にチームコード「f4jw5l88」を入力し、「Global/iCoToBa」のチームに参加してください。前日までには、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

春休み、ブラジルのサンパウロ大学とポルトガルのミネヨ大学にそれぞれ1週間滞在し、ゲスト講師として日本文学や日本文学のポルトガル語版などについて講義してきました。授業の様子や授業の合間や前後に訪れた場所などについて紹介したいと思います。

※オンラインでも観覧いただけます！

※セミナーの観覧方法
県大のOffice365 Teamsで「コードでチームに参加する」にチームコード「f4jw5l88」を入力し、「Global/iCoToBa」のチームに参加してください。前日までには、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

グローバル実践教育推進室

2024年度 第4回 グローバルセミナー @iCoToBa

「ひじょうしよくをたべてみよう！」実践報告

6月12日 水 12:10 ~ 12:50

場所
CroCuS

スピーカー
コミュニケーション講座受講生
担当者: 吉田理加 氏
外国語学部3年コロンビア学専攻
大学院国際文化研究科

地震(じしん)や台風(たいふう)で避難所(ひなんじょ)にいかねければならなくなってしまうか？非常食(ひじょうしょく)を安全(あんぜん)に食(た)べるときにはどうすればいいですか？日本人学生(にほんじんがくせい)と留学生(りゅうがくせい)が一緒に(いっしょ)に考(かんが)えました。その取(とり)組(ぐ)みについて報告(ほうこ)します。

※iCoToBaグローバルセミナーは、毎月2回水曜日の昼に開催するカジュアルなセミナーです。グローバルな話題について、学部や専門を超えて話し合おう！

※オンラインでも観覧いただけます！

※セミナーの観覧方法
県大のOffice365 Teamsで「コードでチームに参加する」にチームコード「f4jw5l88」を入力し、「Global/iCoToBa」のチームに参加してください。前日までには、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

グローバル実践教育推進室

2024年度 第1回 グローバルセミナー @iCoToBa
グローバル実践教育推進室

日本の市町村合併について

スピーカー
クラマー スベン
歴史文化学科

4.24 水
12:10-13:00

場所: CroCuS (クロッカス)
※オンラインでも観覧いただけます！

※iCoToBaグローバルセミナーは、毎月2回水曜日の昼に開催するカジュアルなセミナーです。グローバルな話題について、学部や専門を超えて話し合おう！

※セミナーの観覧方法
県大のOffice365 Teamsで「コードでチームに参加する」にチームコード「f4jw5l88」を入力し、「Global/iCoToBa」のチームに参加してください。前日までには、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

日本は国際的に際でも市町村合併を積極的に行っている国である。「市町村」とは日本の基礎的な公共団体（行政区域および自治体）の総称で、その数を廃置分合で減らす政策は「市町村合併」と呼ばれている。3つの「大合併」を経て、市町村の数は明治時代から現在までの間に約10倍から約100倍に減少している。中でもミナトは日本の市町村合併政策の発展と「大合併」の発展を創り出す。

市町村合併の歴史と「大合併」の発展を創り出す。

2024年度 第2回 グローバルセミナー @iCoToBa

「災害を考える」メディア制作プロジェクト成果発表

—iCoToBa Nexus プログラムにおけるメディア制作—

5月15日 水 12:10 ~ 12:45

場所 CroCuS (クロッカス)

スピーカー
Brett Hack (iCoToBa 多言語学習センター / グローバル実践教育推進室)
「災害を考えるプロジェクト」参加学生

※オンラインでも観覧いただけます！

※セミナーの観覧方法
県大のOffice365 Teamsで「コードでチームに参加する」にチームコード「f4jw5l88」を入力し、「Global/iCoToBa」のチームに参加してください。前日までには、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

地震や津波などに加え、気候温暖化の影響による異常気象、パンデミックなど、災害が加速的に増え、現代をどうやって生き残るか？iCoToBa Nexusプロジェクトでは、「災害」というテーマで、行政面と文化面を考える対談イベントシリーズとして、県大の教員と学生が学際的な解決策を考へ出し、その対談イベントをベースにビデオを制作しました。イベント企画と司会、ビデオ撮影と編集はすべて学生チームが担当しました。

グローバル実践教育推進室

実践報告

防災訓練におけるAED救命講習 ウィスパリング通訳

コミニティ通訳（つうやく）について勉強（べんきょう）しようとして、防災訓練（ぼうさいくんれん）のAED救命講習（きゆうめいこうじょうしゅう）で通訳（つうやく）する練習（れんしゅう）をしました。多言語（たげんご）のチャランも作りました。日本人学生（にほんじんがくせい）と留学生（りゅうがくせい）が一緒に（いっしょ）に考（かんが）えました。その取（とり）組（ぐみ）について報告（ほうこく）します。

11月13日 水 12:10 ~ 12:50

場所 CroCuS

オンラインでも観覧いただけます！

※セミナーの開催方法※
 県大のOffice365 Teams で「コードでチームに参加する」にチームコード「14w5f68」を入力し、「Global / CroToBa」のチームに 参加してください。
 前日までに、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

グローバル実習教育推進室

グローバルセミナーは、毎月の国・地域別のテーマに関連するカジュアルなセミナーです。グローバルな話題について、学外や専門家を起用して実施しましょう！

エドゥーゼスエナガ 氏（教養教育センター）
担当：吉田 遼 氏
（外国語学部） 国際文化研究科 コミュニティ通訳実践専攻 / 国際文化研究科

2024年度 第12回 グローバルヘルセミナ @iCoToBa

グローバル実践教育推進室

「並び方」の考察：昭和の川型から令和のフオーク型へ

待ち行列理論の研究成果とその社会実装

情報科学部

奥田 隆史氏

フオーク型

昭和時代

2024年秋、某TV局から取材を受けました。取材内容は「昭和時代の公衆での『並び方』は川型だったが、令和時代の今はフオーク型になった」という。その理由を科学的に説明して欲しい。その理由を待ち行列理論・情報科学の研究成果の社会実装・普及という視点で考察したい。社会実装・普及の分析には人文社会系分野の力が必要であること、『並び方』を変えることで、業務改善についても触れたい。

1/
15

(水)

12:10-13:00

E棟2階CroCuS

*** セミナーの追加方法**

果太のOffice365Teamsにチームに参加するにチームコード「t1jw5t68」を入力し、「Global / iCoToBa」のチームに参加してください。

前日までに、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。

グローバルヘルセは、毎月2回休日の昼に開催するみずスマルなセミナーです。

グローバル&グローバルな疑問について、学歴や専門を越えて話し合おう！

2024年度 第10回グローバルセミナー @iCoToBa

グローバル実践教育推進室

グローバルセミナーは、毎月2回水曜日の昼に開催するカジュアルなセミナーです。
グローバルとグローバルな話題について、学部や専門を超えて話しましょう！

大学における横断的コンピテンシー

2024年12月11日(水)

12:10-12:50

E棟2階 CroCuS

スピーカー

María del Mar Sanjuán Roca 氏

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学

2024年度グローバル学術交流事業「今求められる学力と学びとは？」

「コンピテンシーに基づく教育をグローバルに開く」の講師が、大学において求められる「横断的な「コンピテンシー（能力）」に基づく教育について、大学生にもわかりやすくお話しします。国際文化研究科コミュニティ選読コースの大学院生と専門スペイン語（コミュニケーション）履修学生が通訳・日本語の同時通訳を担当します。対面のみの開催です。










iCoToBa Welcome Week 文化体験イベント

3か国のパンケーキ料理食べ比べ

4月12日(金曜日)14:30~16:30
受付場所: iCoToBaラウンジ
定人: 60人
材料費: 400円
(お代わり自由、飲み物付き、事前払い)

アメリカの
フラップジャック
フランスの
クレープ
アイルランドの
ボックスティ

異なる味と口触りのパンケーキと好きなトッピングを
合わせて、お腹いっぱいまで食べ比べましょう!

申し込み・参加方法:
iCoToBa受付または下記QRコードから申し込みください。
申込締切: 4/10(水)16時

問い合わせ: icotoba@icorad.jp または iCoToBa 受付まで

ISC企画

2024前期 Welcome Party

県大に新しく来た留学生の歓迎会です

場所: クロッカス(E棟)
(iCoToBaの向かいの教室)

5月8日 14:00~16:00
受付 14:00~14:30
参加無料

下のQRコードから申し込んでね!

応募締め切りは5月3日まで
応募していない方の参加はご遠慮ください

Email: icotoba536324@gmail.com
Instagram: iscmembers

ISC企画

書道大会

墨と筆を使って文字を書いてみよう

日時 六月二十六日
午後一時三十分から四時

場所 アイコトバ 参加無料

↑申し込みは
QRコードから!

Email: icotoba536324@gmail.com
Instagram: iscmembers

ISCイベント
たなばた

七夕 デコレーション

6月26日～7月12日

どんなイベント？
たんざく ねが こと が
短冊に願い事を書いて
たの 楽しむ イベントです！
さき ねが かな
世に飾ると願いが叶うかも！



♥ フェスタ・ジュニーナ ♥
@iCoToBa

開催日：6月27日（木）
時 間：12：10～13：30
場 所：CroCus-iCoToBa AS
※初回はCroCusに集合
参加費：無料
予約不要・出入り自由

★フラジルのお菓子も準備しています！
（数に限りがあります）
★フラジル人留学生による
quadrilha（ダンス）の紹介と体験
留学生に教えてもらって、
皆で一緒に踊りましょう！



ポルトガル語経験不要！
誰でも気軽に参加できます！

★「ポルトガル語II」の学生によるフェスタ・ジュニーナに関する発表（学習成果の発表）
★参加者どうしの交流など



伝統の服装、
チェックのシャツとジーンズ。
できる方はぜひ着て来てください！

「フェスタ・ジュニーナ」はこの時期に行われるブラジルの伝統的なお祭りです。このイベントで、楽しみながらブラジル文化に触れてみませんか。

ISC企画

わらび餅パーティー

日時・場所
7月3日 水 15:00～16:30
調理室（ちょうりしつ）

内容
わらびもちづくり体験（たいけん）
参加無料！（定員30名）

持ち物
汚（よご）れてもいい服orエプロンを
持ってきてください！



←参加申し込みはこちら！
応募締め切りは6月20日まで

お問い合わせ
ICOTOBAS36324@gmail.com
INSTAGRAM: ISCMEMBERS



Farewell Party

2024年7月10日 WED

時間 | 13:00-15:00
会場 | クロッカス(E棟2階)

参加無料です！
申込用フォーム



留学生



県大生

【内容】
・七夕〇×クイズ
・フリートーク
・短冊を書こう！ など

帰国する留学生に向けて
送別会を行います

県大生 先着30名まで

申込期限：7.3

お問い合わせ：
Gmail → ICOTOBAS36324@gmail.com
Instagram → iscmembers

Okinawan Culture
Student Poster Presentation
Session

WHERE: CroCuS
WHEN: Monday 7/29
 12:00 – 12:50 p.m.

Please join us for a student poster presentation session. Students from Prof. Hastings's class, "Cultural Dialogues: Exploring Intercultural Competence in the Context of Okinawa," will present their research on an aspect of Okinawan culture. Everybody is welcome!

学生ポスター発表会にご参加ください。ヘイスティンズ先生のクラス「Advanced Seminars in English A」の学生たちが、沖縄文化の一側面についての研究を発表します。皆さんのご参加を待ちしております！

Contact: hastings@for.aichi-pu.ac.jp

ISC企画

WELCOME PARTY

県大に新しく来た留学生と交流しよう！

- 内容：フリートーク、ゲーム
- 場所：B101
- 参加無料

2024年10月9日 14:00～16:00
 (受付 14:00～14:30)

↓申込はこちら！



△事前申し込みをした方のみ
 ご参加いただけます。
 締切:10月4日(金)

 **日本語教育実習（国外）** 
帰国報告会

日本語教員課程には、選択科目として「日本語教育実習（国外）」があります。
 今年は8月21日～9月6日の約3週間、台湾で行われました。

 **日本語学習キャンプ**
 **日本文化体験**
 **台湾の日本語教室**
 **台南での活動**

日時: 2024年11月6日(水) 12:10～13:00
場所: E棟2階 CroCuS

上記のことはもちろん、渡航前の準備や、観光のことまで、実習の全てを報告します。話だけ聞きたい方も大歓迎です！

 

絞染め体験  

シイタケの染料で！
 まうまう要予約

お申し込みはこちら→
 締め切り:11/26(火)



11/27(水) 14:15-16:30
 (受付 14:15-14:30)

場所: 第一食堂(バルク)

参加費: 300円

内容: シイタケの染料を使って絞染めハンカチを作ろう！

持ち物: 汚れてもいい服、参加費

募集人数: 留学生10名 一般学生10名

ALEQ×ISC
コラボ企画

問い合わせ先: 留学生課 ALEQ 2020



ISC企画
2024 Christmas Party

日程 2024年12月4日 (水)
時間 14:00~16:00
場所 iCoToBa/調理室

●クッキーデコレーション
●クリスマスプレゼント交換

お申し込みはこちら
〆切 11/10 (月) **先着30名!**



参加無料!
プレゼントを持ってくる!
(1000円程度)

お問い合わせ icotobasc@gmail.com



ISC企画
FAREWELL PARTY

2025年 1 月 15 日
クロッカス・調理室
受付時間 13:30~14:00
開催時間 14:00~16:00

- ・ベア参加可能! 友達と一緒に申し込もう!
- ・お正月クイズや福笑いで日本のお正月を楽しもう!
- ・ちょっとしたお年玉があるかも...!?
- ・みんなでおしるこ作りを体験しよう!

※大豆アレルギーの方はご注意ください△
※Please be careful if you are allergic to soybeans △

応募はこちらから→ しめきり 1月8日



参加費無料!

6 外部・地域との連携事業

グローバル実践教育推進室では、地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

2024 年度に実施した内容は下記のとおりである。

6.1 探・県大スタディツアー

2021 年から始まった愛知県教育委員会と連携した英語教育推進事業「探・県大スタディツアー」を引き続き実施した。

【目的】

県立高等学校に在籍する生徒が、愛知県立大学において、より高度な学びを体験するとともに、外国人留学生等との交流を通して、国際的な視野の涵養を図る。

【日程】

令和 6 年 9 月 14 日(土)10:00～15:00 参加者:29 名

令和 6 年 9 月 21 日(土)10:00～15:00 参加者:30 名

【当日のスケジュール】(各日程同一内容)

- ① 趣旨説明・諸注意(10 分)
- ② 模擬授業(90 分)
- ③ キャンパスツアー(動画上映 20 分)
- ④ 交流会(60 分)

【講師および本学参加学生】

講 師	Brett HACK	iCoToBa(多言語学習センター)准教授
講 師	Benjamin FILER	教養教育センター准教授
本学学生	寺田 栞菜	国際文化研究科 国際院 2 年
	水谷 理沙	外国語学部英米学科 4 年
	席 青春	日本文化学部歴史文化学科 3 年
	劉 展廷	台湾 東呉大学
	高野 頌子	外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 4 年
	バスティアン エブラル	フランス リール大学



[2024 年 9 月 14 日・21 日 探・県大スタディツアー]

6.2 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業への協力



[2024 年 10 月 22 日千種高校での交流会]

国の事業である WWL 活動に取り組んでいる千種高校の生徒と愛知県内の大学生との交流会に本学の留学生も参加しました。自己紹介後、「LGBTQ+」に関する日本や留学生の出身国での現状について話し合い、問題点の解決策をともに考え、理解を深めました。

※WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業

将来、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、これまでのスーパーグローバルハイスクール事業の取組の実績等、グローバル人材育成に向けた教育資源を活用し、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み(AL ネットワーク)の形成を目指す取組です。

7 広報活動

7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信

iCoToBa は、2013 年の開室にあわせ公式 Web サイトを開設し、iCoToBa の利用促進を目指して、さまざまな情報発信をしている。iCoToBa の公式 Web サイト「Pickup Information」と「新着情報」を定期的に更新し、イベントや講座情報などを広く発信した。更新日とタイトルを表 12 に示す。2024 年 4 月 1 日から 2025 年 2 月 1 日の発信件数は 37 件である(2025 年 2 月 1 日現在)。

[表12 2024年度iCoToBa公式Webサイトでの情報提供]

更新日	タイトル
2024.4.5	2024 年度前期 iCoToBa 講座の受講申込について
2024.4.5	Welcome Week を開催します！
2024.4.5	2024 年度 第 1 回グローバルセミナーの開催について
2024.4.5	【iCoToBa】前期 iContact の予約は 4 月 8 日(月)午前 9 時からです！
2024.4.8	【グアダラハラ大学】日本語会話ボランティア募集について
2024.4.17	本日（4/17）14:30~よりスタート！iCoToBa Open Screen iCoToBa で映画を上映します！
2024.4.26	留学生 iContact 始まりました！
2024.4.26	毎週月曜日 iCoToBa で留学報告会を開催します！
2024.4.26	2023 年度 第 2 回グローバルセミナーの開催について
2024.4.26	5 / 13~5 / 24 の iContact の予約について
2024.4.26	ゴールデンウィーク期間中の閉室のお知らせ
2024.5.8	iCoToBa 地域コミュニティ言語講座（ベトナム語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語）受講者を募集します！
2024.5.17	2024 年度 第 3 回グローバルセミナーの開催について
2024.5.31	2024 年度 第 4 回グローバルセミナーの開催について
2024.6.14	2023 年度 第 5 回グローバルセミナーの開催について
2024.7.24	iCoToBa 夏季休暇中の開室時間のお知らせ
2024.9.27	2024 年度後期 iCoToBa 講座受講者募集！！
2024.9.27	後期の iContact は 10 月 7 日(月)から始まります！【10 月 7 日~18 日の iContact の予約は 9 月 30 日から受け付けます】
2024.10.3	2024 年度後期時間割
2024.10.3	2024 年度 第 6 回グローバルセミナーの開催について
2024.10.3	グアダラハラ大学日本語会話ボランティアを募集します
2024.10.4	iCoToBa 検定試験対策講座受講者募集
2024.10.4	「iCoToBa 講座 TOEIC クリニック（単発講座）」を開講します
2024.10.9	10 月 9 日より「Open Screen」が始まります

更新日	タイトル
2024.10.17	2024 年度 第 7 回グローバルセミナーの開催について
2024.10.17	iCoToBa 地域コミュニティ言語講座（ベトナム語・中国語・韓国朝鮮語初級編・教育分野スペイン語）受講者募集！！
2024.10.18	【10/21(月)から】留学生 iContact（フランス語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語）が始まります！
2024.10.18	中国語検定試験対策講座日程が変更になりました
2024.10.23	10/28（月）より留学報告会が始まります
2024.10.23	2024 年度 第 8 回グローバルセミナーの開催について
2024.10.31	11 月 2 日（土）第 14 回多言語競演レシテーション大会開催
2024.11.7	2024 年度 第 9 回グローバルセミナーの開催について
2024.12.3	2024 年度 第 10 回グローバルセミナーの開催について
2024.12.26	2024 年度 第 11 回グローバルセミナーの開催について
2024.12.26	2024 年度 第 12 回グローバルセミナーの開催について
2025.1.15	グアダラハラ大学日本語会話ボランティアの募集について
2025.1.27	春季休暇 iCoToBa 閉室のお知らせ

7.2 SNS での発信(Facebook・Instagram)

2017 年 4 月に iCoToBa の Facebook「愛知県立大学 icotoba(あいことば)」を開設した。週に 1 回以上の更新を目標に、学生が読みやすいカジュアルな文章や写真を多くアップしている。また 2019 年 6 月からは、Facebook と連動させて Instagram も開始し、認知度を高めるポスターの掲示や、ページへのアクションキャンペーンを行った。2025 年 2 月 1 日現在で Facebook のフォロワー数は 406 人、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 2 月 1 日の発信件数は 58 件である。また、Instagram のフォロワー数は 405 人、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 2 月 1 日の発信件数は 37 件である。Facebook の記事の公開日および内容を表 11 に示す(2025 年 2 月 1 日現在)。

[表13 2024年度 Facebookによる発信状況]

公開日	投稿内容
2024.4.5	クロッカスにつぼみ発見
2024.4.11	第 13 回城西大学 英語スピーチコンテスト広報
2024.4.11	第 10 回城西大学 中国語スピーチコンテスト広報
2024.5.27	留学報告会（スペイン サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学）報告
2024.5.28	留学報告会（オーストラリア ウーロンゴン大学）報告
2024.7.8	留学報告会（フランス リール大学）報告
2024.7.8	留学報告会（マレーシア ティラズ大学）報告
2024.7.8	留学報告会（ドイツ テュービンゲン大学）報告
2024.7.9	留学報告会（アメリカ アリゾナ州立大学）報告
2024.7.9	留学報告会（カナダ メモリアル大学）報告

公開日	投稿内容
2024.7.9	第 14 回学生英語スピーチコンテスト広報
2024.7.10	第 2 回スペイン語スピーチコンテスト広報
2024.7.10	第 15 回日仏会館フランス語コンクール広報
2024.7.10	第 96 回 TOPIK 韓国語能力試験広報
2024.7.10	第 42 回全日本中国語スピーチコンテスト愛知県大会広報
2024.7.10	第 113 回中国語検定試験広報
2024.7.10	留学報告会（スペイン セビリャ大学）報告
2024.7.11	多言語競演レシテーション大会 2024 出場希望者大募集
2024.7.12	留学報告会（台湾 東海大学）報告
2024.7.15	前期最終週 iContact 申込み募集
2024.7.17	留学報告会（フランス トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校）報告
2024.7.19	第 18 回森田杯・英文毎日杯 日本文化英語プレゼンコンテスト
2024.7.19	第 84 回ロシア語能力検定広報
2024.7.24	Okinawan Culture Student Poster Presentation Session 広報
2024.8.1	iCoToBa 夏季講座 英語力強化集中講座広報
2024.8.2	留学報告会（スペイン プンペウ・ファブラ大学）報告
2024.8.8	多言語競演レシテーション大会出場者募集
2024.8.21	第 6 回 全日本学生フランス語プレゼンテーション大会広報
2024.8.21	江蘇杯中国語スピーチコンテスト中部東海地区大会広報
2024.8.27	仏検 2024 年度秋季試験広報
2024.10.1	第 13 回全国大学生マーケティング・コンテスト広報
2024.10.2	2024 年度後期 iCoToBa 講座申込み募集
2024.10.2	iContact 予約受付中
2024.10.2	iCoToBa 検定試験対策講座受講者募集中
2024.10.4	iCoToBa 講座 TOEIC クリニック（単発講座）受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「食文化から学ぶ中国語講座」受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「初めてのベトナム語入門講座」受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「韓国朝鮮語 CoTo はじめ」受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「教育分野スペイン語入門講座」受講者募集
2024.10.18	全国スペイン語弁論大会広報
2024.10.18	名古屋国際センター「NIC グローバルユースプロジェクト」広報
2024.10.18	2024 年度 第 7 回グローバルセミナー広報
2024.10.18	「中国語検定試験 3 級合格を目指そう！」日程変更
2024.10.18	留学生 iContact スケジュール広報
2024.10.18	留学生 iContact 広報
2024.10.21	留学報告会(台湾 静宜大学)広報
2024.10.23	2024 年度 第 8 回グローバルセミナー広報

公開日	投稿内容
2024.11.1	留学報告会(台湾 静宜大学)報告
2024.11.7	2024 年度 第 9 回グローバルセミナー広報
2024.11.12	留学報告会(マレーシア ティラーズ大学)報告
2024.11.25	留学報告会(カナダ ケベック大学モントリオール校)報告
2024.12.2	留学報告会(ドイツ ケルン大学)報告
2024.12.3	2024 年度 第 10 回グローバルセミナー広報
2024.12.4	留学報告会(スペイン サンティアゴ・デ・コンポステラ大学)報告
2024.12.16	留学報告会(イギリス ニューカッスル大学)報告
2024.12.18	留学報告会(台湾 東呉大学)報告
2025.1.6	留学報告会(韓国 韓国外国語大学)報告
2025.1.21	留学報告会(ベルギー ゲント大学)報告

[表14 2024年度 Instagramによる発信状況]

公開日	投稿内容
2024.4.5	クロッカスにつぼみ発見
2024.4.11	第 13 回城西大学 英語スピーチコンテスト 広報
2024.4.11	第 10 回城西大学 中国語スピーチコンテスト広報
2024.7.9	第 14 回学生英語スピーチコンテスト広報
2024.7.10	第 2 回スペイン語スピーチコンテスト広報
2024.7.10	第 15 回日仏会館フランス語コンクール広報
2024.7.10	第 96 回 TOPIK 韓国語能力試験広報
2024.7.10	第 42 回全日本中国語スピーチコンテスト愛知県大会広報
2024.7.10	第 113 回中国語検定試験広報
2024.7.11	2024 年度多言語競演レシテーション大会参加書募集広報
2024.7.15	前期最終週 iContact 申込み募集
2024.7.19	第 18 回森田杯・英文毎日杯 日本文化英語プレゼンコンテスト
2024.7.19	第 84 回ロシア語能力検定広報
2024.7.24	Okinawan Culture Student Poster Presentation Session 広報
2024.8.1	iCoToBa 夏季講座 英語力強化集中講座広報
2024.8.8	多言語競演レシテーション大会出場者募集
2024.8.21	第 6 回 全日本学生フランス語プレゼンテーション大会広報
2024.8.21	江蘇杯中国語スピーチコンテスト中部東海地区大会広報
2024.8.27	仏検 2024 年度秋季試験広報
2024.10.1	第 13 回全国大学生マーケティング・コンテスト広報
2024.10.2	2024 年度後期 iCoToBa 講座申込み募集
2024.10.2	iContact 予約受付中
2024.10.2	iCoToBa 検定試験対策講座受講者募集中

公開日	投稿内容
2024.10.4	iCoToBa 講座 TOEIC クリニック（単発講座）受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「食文化から学ぶ中国語講座」受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「初めてのベトナム語入門講座」受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「韓国朝鮮語 CoTo はじめ」受講者募集
2024.10.17	地域コミュニティ言語講座「教育分野スペイン語入門講座」受講者募集
2024.10.18	全国スペイン語弁論大会広報
2024.10.18	名古屋国際センター「NIC グローバルユースプロジェクト」広報
2024.10.18	2024 年度 第 7 回グローバルセミナー広報
2024.10.18	「中国語検定試験 3 級合格を目指そう！」日程変更
2024.10.18	留学生 iContact 広報
2024.10.21	留学報告会（台湾 静宜大学）広報
2024.10.23	2024 年度 第 8 回グローバルセミナー広報
2024.11.7	2024 年度 第 9 回グローバルセミナー広報
2024.12.3	2024 年度 第 10 回グローバルセミナー広報



[iCoToBa SNS ページ]

8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧

(2024 年 4 月～2025 年 1 月)

2024 年 4 月から 2025 年 1 月までの iCoToBa 利用者一覧を表 15、表 16 に示す。

[表 15 iCoToBa 利用状況(外国語学部生)]

入学年度	外国語学部						
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2024	64	143	294	103	143	240	987
2023	18	28	64	65	117	68	360
2022	263	31	58	19	6	5	382
2021	31	9	22	19	26	13	120
2020 以前	44	24	58	5	7	17	155
計	420	235	496	211	299	343	2,004

(人数はのべ数)

[表 16 iCoToBa 利用状況(外国語学部以外の学生)]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		看護学部	情報科学部	大学院	※ 交換留学生	芸大	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 発達	社会 福祉						
2024	4	5	59	29	19	10	107	126	0	359
2023	0	1	5	5	0	0	1	38	0	50
2022	3	0	2	0	0	0	2	0	0	7
2021	0	15	0	26	0	0	0	0	0	41
2020 以前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	21	66	60	19	10	110	164	0	457

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

9 iCoToBa 施設見学

9.1 高等学校の iCoToBa 施設見学

[表17 2024年度iCoToBa訪問者(高等学校関係)]

月 日	学校名・学年	訪問者数			
		生徒	教諭	PTA	合計
5 月 21 日	愛知県立大府高等学校	45	2		47
5 月 23 日	愛知県立三好高等学校	40	2		42
6 月 4 日	愛知県立幸田高等学校	40	2		42
6 月 12 日	三重県立亀山高等学校	35			35
6 月 17 日	愛知県立知多翔洋高等学校	40	2		42
6 月 26 日	愛知県立豊田高等学校		2	30	32
6 月 27 日	愛知県立小坂井高等学校		2	80	82
7 月 2 日	岐阜県立長良高等学校	42	2		44
7 月 11 日	愛知県立豊田東高等学校	41	2		43
7 月 12 日	私立名古屋高等学校	30	1		31
7 月 30 日	富山県立福岡高等学校	40	3		43
8 月 21 日	富山県立大門高等学校	47	2		49
8 月 28 日	愛知県立美和高等学校	35	2		37
9 月 5 日	三重県立津西高等学校	40	2		42
10 月 9 日	愛知県立一宮南高等学校		2	38	40
10 月 11 日	沖縄県教育委員会主催事業 進学エンカレッジ推進事業	30	3		33
10 月 17 日	愛知県立犬山高等学校	40	2		42
10 月 23 日	名古屋国際学園	40			40
10 月 31 日	私立藤枝明誠高等学校		3	15	18
計 19 校		585	36	163	784

10 グローバル実践教育推進室会議

2024 年度のグローバル実践教育推進室会議開催一覧を以下、表 18 に示す。

[表 18 2024 年度グローバル実践教育推進室会議開催一覧]

回	開催日	主たる審議・報告事項
第 1 回	5 月 14 日	グローバル実践教育推進室名簿について 2024 年度グローバル実践教育推進室事業内容(案) 「グローバル実践教育プログラム」代替科目での履修について グローバル実践教育プログラム「海外協定大学修得科目(外国語学部)」について 2024 年度地域コミュニティ言語講座(西)担当非常勤講師の委嘱について 2024 年度前期 iCoToBa 講座開講について グローバルセミナー講師選出依頼 東海東京財団助成金執行結果 2024 年度前期 iCoToBa 講座開講状況 2024 年度前期 iContact 実施について
第 2 回 (メール会議)	5 月 17 日 ~22 日	「グローバル実践教育プログラム」代替科目での履修について
第 3 回 (メール会議)	7 月 22 日 ~29 日	令和 6 年度(2024 年度)前期集中 iCoToBa 講座開講予定について
第 4 回 (メール会議)	8 月 5 日 ~9 日	令和 6 年度(2024 年度) グローバル実践教育推進室専任教員の兼業兼職について
第 5 回	10 月 1 日	2024 年度東海東京財団助成金の使途について 2024 年度後期 iCoToBa 開講講座について 2024 年度後期時間割 iCoToBa SNS での県大祭広報の協力について 2024 年度助成金の交付について 愛知県教育委員会との連携事業について 2024 年度前期 iCoToBa 授業アンケート 2024 年度オープンキャンパスアンケート 2024 年度後期 iContact スケジュール iCoToBa・グローバル関連イベントの今後のスケジュール
第 6 回 (メール会議)	10 月 11 日 ~10 月 17 日	2024 年度後期 iCoToBa 地域コミュニティ言語講座開講について

回	開催日	主たる審議・報告事項
第7回 (メール会議)	10月30日 ~11月7日	グローバル実践教育推進室専任教員の学外研究について iCoToBa コミュニティ通訳講座受講者への受講証明書の発行について
第8回 (メール会議)	12月3日 ~9日	令和6年度(2024年度) グローバル実践教育推進室専任教員の兼業兼職について
第9回	1月8日	グローバル実践教育プログラム修了者の県大世界あいち学マイスター制度「グローバル実践教育マイスター」認定について 2025年度 iCoToBa 予算要望について 2025年度 iCoToBa 非常勤講師の委嘱について

11 グローバル実践教育推進室

2024年度のグローバル実践教育推進室室員および事務担当者は以下のとおりである。

室長	奥田 隆史(教養教育センター長、情報科学科)
副室長	四ツ谷 亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
室員	
外国語学部	前期 佐藤 雅哉(英米学科) 後期 矢野 順子(国際関係学科)
日本文化学部	上川 通夫(歴史文化学科)
教育福祉学部	橋本 明(社会福祉学科)
看護学部	河村 諒(看護学科)
情報科学部	神谷 幸宏(情報科学科)
グローバル実践教育推進室	ブレット ハック(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)
学務部部長兼課長	川島 香織
担当事務職員	水野 淑子(グローバル実践教育推進室・iCoToBa) 今井 志穂(グローバル実践教育推進室・iCoToBa) 秋本 美里(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)

iCoToBa 年報 第 12 号

グローバル実践教育推進室年報

2025（令和 7）年 3 月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480－1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522－3 E 棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail : icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<https://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa
Annual Report
Aichi Prefectural University

iCoToBaは東海東京財団の助成金を得て、運営しています